

接続約款変更認可申請書

西相制第 202 号
平成 20 年 2 月 25 日

総務大臣
増田 寛也 殿

郵便番号 540-8511

おおさかふおおさかしちゅうおうくぼんぼちよう

住所 大阪府大阪市中央区馬場町3番15号

名称及び代表者の氏名

にしにっぽんでんしんでんわかぶしがいしや

西日本電信電話株式会社

もりした しゅんぞう

代表取締役社長 森下 俊三

登録の番号及び年月日

第 234 号 平成 16 年 4 月 1 日

電気通信事業法第 33 条第 2 項の規定により、別紙のとおり接続約款の変更の認可を受けたいので申請します。

実施期日	認可を受けた後、平成 20 年 4 月 1 日から実施します。
------	---------------------------------

電気通信事業法第33条第2項に基づく第1種指定電気通信設備との接続に関する契約約款の一部改正

旧	
料金表 第1表 接続料金 第1 網使用料 1 適用	
区 分	内 容
(1)～(3) (略)	(略)
(3)-2 事業法第33条第5項の機能に係る網使用料の適用年度	2 (料金額) 2-1-1-1第1欄、2-2第1欄、第7欄及び第8欄、2-3、2-4、2-5-1、2-5-2及び2-5-2の2、2-7並びに2-11第1欄から第10欄に規定する機能に係る料金額(以下「 <u>事業法第33条第5項の機能に係る網使用料</u> 」といいます。)は、平成19年度に適用します。
(4)～(29) (略)	(略)

二重下線部の削除については、西相制第167号により認可申請中です。

- 2 料金額
2-1 端末回線伝送機能
2-1-1 基本額
2-1-1-1 基本料

月額

区 分	単 位	料金額	備 考	
(1) PHS基地局回線機能	基地局回線により接続する機能	1回線ごとに	1,658円	活用型PHS事業者に適用します。
	ア 保守の区別がタイプ1-1のもの	1回線ごとに	1,689円	
(2)～(8) (略)	(略)	(略)	(略)	

2-1-1-2～2-1の4 (略)

- 2-2 端末系交換機能

区 分	単 位	料金額	備 考	
(1) 加入者交換機能	加入者交換機(簡易型交換機(契約者回線を収容する交換設備のうち当社が指定する交換機をいいます。以下同じとします。))及び加入者交換機と端末系伝送路設備との間に設置される伝送装置等を含みます。以下料金表第1表第1において同じとします。)により通信の交換を行う機能	1通信ごとに	0.66351円	—
		1秒ごとに	0.022390円	

新	
料金表 第1表 接続料金 第1 網使用料 1 適用	
区 分	内 容
(1)～(3) (略)	(略)
(3)-2 事業法第33条第5項の機能に係る網使用料の適用年度	2 (料金額) 2-1-1-1第1欄、2-2第1欄、第7欄及び第8欄、2-3、2-4、2-5-1、2-5-2及び2-5-2の2、2-7並びに2-11第1欄から第10欄に規定する機能に係る料金額は、平成20年度に適用します。
(4)～(29) (略)	(略)

- 2 料金額
2-1 端末回線伝送機能
2-1-1 基本額
2-1-1-1 基本料

月額

区 分	単 位	料金額	備 考	
(1) PHS基地局回線機能	基地局回線により接続する機能	1回線ごとに	1,680円	活用型PHS事業者に適用します。
	ア 保守の区別がタイプ1-1のもの	1回線ごとに	1,680円	
(2)～(8) (略)	(略)	(略)	(略)	

2-1-1-2～2-1の4 (略)

- 2-2 端末系交換機能

区 分	単 位	料金額	備 考	
(1) 加入者交換機能	加入者交換機(簡易型交換機(契約者回線を収容する交換設備のうち当社が指定する交換機をいいます。以下同じとします。))及び加入者交換機と端末系伝送路設備との間に設置される伝送装置等を含みます。以下料金表第1表第1において同じとします。)により通信の交換を行う機能	1通信ごとに	0.67267円	—
		1秒ごとに	0.021450円	

(2)～(6) (略)	(略)	(略)	(略)	(略)
(7) 加入者交換機回線対応部専用機能	当社の加入者交換機回線対応部に加入者交換機接続回線を収容する機能	24回線 (1.5Mbit/s相当)ごとに月額	30,153円	—
(8) 加入者交換機回線対応部共用機能	当社の加入者交換機回線対応部に加入者交換機と市外中継交換機との間の伝送路設備(中継伝送共用機能に係るもの)に収容する機能	1秒ごとに	0.0026934円	—

2-2の2(略)

2-3 市内伝送機能

区分	単位	料金額	備考	
市内伝送機能	市内中継交換機(中継交換機のうち市内通信の交換を行うものをいいます。以下同じとします。)と加入者交換機との間の伝送路設備、加入者交換機相互間の伝送路設備、市内中継交換機により、同一単位数料金区域内に終始する通信の交換及び伝送を行う機能	1通信ごとに	0.24611円	—
	1秒ごとに	0.011655円		

2-4 中継系交換機能

区分	単位	料金額	備考	
(1) 中継交換機能	市外中継交換機(中継交換機であって市内中継交換機以外のものをいいます。以下同じとします。)により通信の交換を行う機能	1通信ごとに	0.24611円	—
	1秒ごとに	0.00089165円		
(2) 中継交換機回線対応部専用機能	当社の中継交換機回線対応部に中継交換機接続回線を収容する機能	24回線 (1.5Mbit/s相当)ごとに月額	4,167円	—
(3) 中継交換機回線対応部共用機能	当社の中継交換機回線対応部に加入者交換機と市外中継交換機との間の伝送路設備(中継伝送共用機能に係るもの)に収容する機能	1秒ごとに	0.00037266円	—

(2)～(6) (略)	(略)	(略)	(略)	(略)
(7) 加入者交換機回線対応部専用機能	当社の加入者交換機回線対応部に加入者交換機接続回線を収容する機能	24回線 (1.5Mbit/s相当)ごとに月額	29,947円	—
(8) 加入者交換機回線対応部共用機能	当社の加入者交換機回線対応部に加入者交換機と市外中継交換機との間の伝送路設備(中継伝送共用機能に係るもの)に収容する機能	1秒ごとに	0.0026266円	—

2-2の2(略)

2-3 市内伝送機能

区分	単位	料金額	備考	
市内伝送機能	市内中継交換機(中継交換機のうち市内通信の交換を行うものをいいます。以下同じとします。)と加入者交換機との間の伝送路設備、加入者交換機相互間の伝送路設備、市内中継交換機により、同一単位数料金区域内に終始する通信の交換及び伝送を行う機能	1通信ごとに	0.22090円	—
	1秒ごとに	0.012360円		

2-4 中継系交換機能

区分	単位	料金額	備考	
(1) 中継交換機能	市外中継交換機(中継交換機であって市内中継交換機以外のものをいいます。以下同じとします。)により通信の交換を行う機能	1通信ごとに	0.22090円	—
	1秒ごとに	0.00082969円		
(2) 中継交換機回線対応部専用機能	当社の中継交換機回線対応部に中継交換機接続回線を収容する機能	24回線 (1.5Mbit/s相当)ごとに月額	3,684円	—
(3) 中継交換機回線対応部共用機能	当社の中継交換機回線対応部に加入者交換機と市外中継交換機との間の伝送路設備(中継伝送共用機能に係るもの)に収容する機能	1秒ごとに	0.00032369円	—

2 - 5 中継伝送機能

2 - 5 - 1 中継伝送共用機能

区 分		単 位	料金額	備 考
中継伝送共用機能	加入者交換機と市外中継交換機との間の伝送路設備を当社及び協定事業者が共用して通信を伝送する機能	1秒ごとに	0.0050092円	—

2 - 5 - 2 中継伝送専用機能の基本額

2 - 5 - 2 - 1 基本料

区 分			単 位	料金額	備 考	
中継伝送専用機能	加入者交換機と市外中継交換機との間の伝送路設備を専ら協定事業者が利用して通信を伝送する機能	ア 同一通信建物内に終始する場合	(ア)24回線単位のもの	24回線まで月額	17,668円	—
			(1.5Mbit/s相当)	24回線を超える24回線ごとに月額	17,272円	
			(イ)672回線単位のもの(50Mbit/s相当)	672回線ごとに月額	203,346円	
				672回線相当月額	202,950円	
			(ウ)2,016回線単位のもの(150Mbit/s相当)	2,016回線ごとに月額	609,247円	
				2,016回線相当月額	608,851円	
	イ ア以外の場合であって同一の単位数に終始する場合	(ア)24回線単位のもの(1.5Mbit/s相当)	24回線まで月額	36,585円	—	
			24回線を超える24回線ごとに月額	36,189円		
		(イ)672回線単位のもの(50Mbit/s相当)	672回線ごとに月額	425,619円		
			672回線相当月額	425,223円		
		(ウ)2,016回線単位のもの(150Mbit/s相当)	2,016回線ごとに月額	1,276,065円		
			2,016回線相当月額	1,275,669円		
	ウ アイ以外の場合	(ア)24回線単位のもの(1.5Mbit/s相当)	24回線まで月額	42,319円	—	
			24回線を超える24回線ごとに月額	41,923円		
		(イ)672回線単位のもの(50Mbit/s相当)	672回線ごとに月額	492,989円		
			672回線相当月額	492,593円		
		(ウ)2,016回線単位のもの(150Mbit/s相当)	2,016回線ごとに月額	1,478,174円		
			2,016回線相当月額	1,477,778円		

2 - 5 中継伝送機能

2 - 5 - 1 中継伝送共用機能

区 分		単 位	料金額	備 考
中継伝送共用機能	加入者交換機と市外中継交換機との間の伝送路設備を当社及び協定事業者が共用して通信を伝送する機能	1秒ごとに	0.0054415円	—

2 - 5 - 2 中継伝送専用機能の基本額

2 - 5 - 2 - 1 基本料

区 分			単 位	料金額	備 考	
中継伝送専用機能	加入者交換機と市外中継交換機との間の伝送路設備を専ら協定事業者が利用して通信を伝送する機能	ア 同一通信建物内に終始する場合	(ア)24回線単位のもの	24回線まで月額	17,837円	—
			(1.5Mbit/s相当)	24回線を超える24回線ごとに月額	17,416円	
			(イ)672回線単位のもの(50Mbit/s相当)	672回線ごとに月額	197,076円	
				672回線相当月額	196,655円	
			(ウ)2,016回線単位のもの(150Mbit/s相当)	2,016回線ごとに月額	590,386円	
				2,016回線相当月額	589,965円	
	イ ア以外の場合であって同一の単位数に終始する場合	(ア)24回線単位のもの(1.5Mbit/s相当)	24回線まで月額	36,663円	—	
			24回線を超える24回線ごとに月額	36,241円		
		(イ)672回線単位のもの(50Mbit/s相当)	672回線ごとに月額	409,647円		
			672回線相当月額	409,225円		
		(ウ)2,016回線単位のもの(150Mbit/s相当)	2,016回線ごとに月額	1,228,097円		
			2,016回線相当月額	1,227,676円		
	ウ アイ以外の場合	(ア)24回線単位のもの(1.5Mbit/s相当)	24回線まで月額	41,981円	—	
			24回線を超える24回線ごとに月額	41,559円		
		(イ)672回線単位のもの(50Mbit/s相当)	672回線ごとに月額	469,695円		
			672回線相当月額	469,273円		
		(ウ)2,016回線単位のもの(150Mbit/s相当)	2,016回線ごとに月額	1,408,241円		
			2,016回線相当月額	1,407,820円		

2-5-2-2 加算料

区分	単位	料金額	備考
(1) 2-5-2-1ウ欄に規定する中継伝送専用機能を利用する区間の距離が10kmを超える場合の加算料	(ア)24回線単位のもの(1.5Mbit/s相当)	10kmを超えるごと24回線ごとに月額	1,580円
	(イ)672回線単位のもの(50Mbit/s相当)	10kmを超えるごと672回線ごとに月額	18,564円
	(ウ)2,016回線単位のもの(150Mbit/s相当)	10kmを超えるごと2,016回線ごとに月額	55,692円
(2) 中継伝送専用機能を利用して当社が別に定める通信用建物と異なる市外中継交換機に接続する場合等の加算料	(ア)24回線単位のもの(1.5Mbit/s相当)	24回線ごとに月額	18,917円
	(イ)672回線単位のもの(50Mbit/s相当)	672回線ごとに月額	222,273円
	(ウ)2,016回線単位のもの(150Mbit/s相当)	2,016回線ごとに月額	666,819円

2-5-2の2 中継交換機接続用伝送装置利用機能

区分	単位	料金額	備考
中継交換機接続用伝送装置利用機能 第5条第1項の表中第4欄で接続する場合において、通信用建物に設置された中継交換機との接続に限って協定事業者が設置する1の接続用伝送路設備とその中継交換機との間に設置する伝送装置により伝送速度の変換及び信号の多重を行う機能	672回線(50Mbit/s相当)ごとに月額	31,526円	—

2-5-3~2-6の2 (略)

2-7 信号伝送機能

区分	単位	料金額	備考
共通線信号網利用機能	ア 共通線信号網(特定端末系事業者の装置相互間を含みます。)を利用して、PHS事業者のPHS端末の位置登録又は位置情報取得等を行う機能	1信号ごとに	0.015576円 活用型PHS事業者又は特定端末系事業者に適用します。
	イ 共通線信号網を利用して、ユーザ間情報通知を行う機能		国際系事業者、中継事業者、特定端末系事業者又は活用型PHS事業者に適用します。

2-5-2-2 加算料

区分	単位	料金額	備考
(1) 2-5-2-1ウ欄に規定する中継伝送専用機能を利用する区間の距離が10kmを超える場合の加算料	(ア)24回線単位のもの(1.5Mbit/s相当)	10kmを超えるごと24回線ごとに月額	1,512円
	(イ)672回線単位のもの(50Mbit/s相当)	10kmを超えるごと672回線ごとに月額	17,070円
	(ウ)2,016回線単位のもの(150Mbit/s相当)	10kmを超えるごと2,016回線ごとに月額	51,210円
(2) 中継伝送専用機能を利用して当社が別に定める通信用建物と異なる市外中継交換機に接続する場合等の加算料	(ア)24回線単位のもの(1.5Mbit/s相当)	24回線ごとに月額	18,825円
	(イ)672回線単位のもの(50Mbit/s相当)	672回線ごとに月額	212,570円
	(ウ)2,016回線単位のもの(150Mbit/s相当)	2,016回線ごとに月額	637,711円

2-5-2の2 中継交換機接続用伝送装置利用機能

区分	単位	料金額	備考
中継交換機接続用伝送装置利用機能 第5条第1項の表中第4欄で接続する場合において、通信用建物に設置された中継交換機との接続に限って協定事業者が設置する1の接続用伝送路設備とその中継交換機との間に設置する伝送装置により伝送速度の変換及び信号の多重を行う機能	672回線(50Mbit/s相当)ごとに月額	29,969円	—

2-5-3~2-6の2 (略)

2-7 信号伝送機能

区分	単位	料金額	備考
共通線信号網利用機能	ア 共通線信号網(特定端末系事業者の装置相互間を含みます。)を利用して、PHS事業者のPHS端末の位置登録又は位置情報取得等を行う機能	1信号ごとに	0.015790円 活用型PHS事業者又は特定端末系事業者に適用します。
	イ 共通線信号網を利用して、ユーザ間情報通知を行う機能		国際系事業者、中継事業者、特定端末系事業者又は活用型PHS事業者に適用します。

ウ 共通線信号網を利用して、協定事業者のサービスを実現するための信号を送受する機能		
---	--	--

2-8~2-10(略)

2-11 その他の機能

区 分		単 位	料金額	備 考
(1) 市内通信機能	加入者交換機能と市内伝送機能を併用して、相互接続通信において同一単位料金区域内に終始する通信の交換及び伝送を行う機能	1通信ごとに	0.93739円	活用型PHS事業者又は中継事業者に適用します。
		1秒ごとに	0.042284円	
(2) リルーティング通信機能	加入者交換機能、市内伝送機能、中継系交換機能及び中継伝送共用機能を用いて、中継事業者が提供する仮想私設網サービス(以下「VPNサービス」といいます。)に係るリルーティング通話等の交換及び伝送を行う機能	1通信ごとに	1.1745円	中継事業者に適用します。
		1秒ごとに	0.049237円	
(3) リルーティング指示に係る網保留機能	中継事業者が提供するVPNサービスに係るリルーティング通話を行うにあたって、リルーティング指示信号を受信してリルーティングを行うまでの間、加入者交換機、市外中継交換機及び加入者交換機と市外中継交換機間の伝送路設備を保留する機能	1通信ごとに	0.014111円	中継事業者(特定中継事業者を除きます。)に適用します。
(4) 音声ガイダンス送出用接続通信機能	ア 加入者交換機能、中継系交換機能及び中継伝送共用機能を用いて、協定事業者の提供するサービス向けの音声ガイダンス送出に係る通信の交換及び伝送を行う機能	1秒ごとに	0.025155円	_____
	イ 加入者交換機能、中継系交換機能、中継伝送共用機能及び特定中継事業者の伝送路設備を用いて、協定事業者の提供するサービス向けの音声ガイダンス送出に係る通信の交換及び伝送を行う機能	1秒ごとに	0.032186円	_____

ウ 共通線信号網を利用して、協定事業者のサービスを実現するための信号を送受する機能		
---	--	--

2-8~2-10(略)

2-11 その他の機能

区 分		単 位	料金額	備 考
(1) 市内通信機能	加入者交換機能と市内伝送機能を併用して、相互接続通信において同一単位料金区域内に終始する通信の交換及び伝送を行う機能	1通信ごとに	0.93152円	活用型PHS事業者又は中継事業者に適用します。
		1秒ごとに	0.040841円	
(2) リルーティング通信機能	加入者交換機能、市内伝送機能、中継系交換機能及び中継伝送共用機能を用いて、中継事業者が提供する仮想私設網サービス(以下「VPNサービス」といいます。)に係るリルーティング通話等の交換及び伝送を行う機能	1通信ごとに	1.1578円	中継事業者に適用します。
		1秒ごとに	0.047535円	
(3) リルーティング指示に係る網保留機能	中継事業者が提供するVPNサービスに係るリルーティング通話を行うにあたって、リルーティング指示信号を受信してリルーティングを行うまでの間、加入者交換機、市外中継交換機及び加入者交換機と市外中継交換機間の伝送路設備を保留する機能	1通信ごとに	0.013802円	中継事業者(特定中継事業者を除きます。)に適用します。
(4) 音声ガイダンス送出用接続通信機能	ア 加入者交換機能、中継系交換機能及び中継伝送共用機能を用いて、協定事業者の提供するサービス向けの音声ガイダンス送出に係る通信の交換及び伝送を行う機能	1秒ごとに	0.024029円	_____
	イ 加入者交換機能、中継系交換機能、中継伝送共用機能及び特定中継事業者の伝送路設備を用いて、協定事業者の提供するサービス向けの音声ガイダンス送出に係る通信の交換及び伝送を行う機能	1秒ごとに	0.031472円	_____

(5) 課金秒数送出機能	共通線信号網を利用して、接続型PHS事業者が指定する利用者料金の課金のための情報を送信する機能	1通信ごとに	<u>0.031152円</u>	PHS接続地域事業者又は特定端末系事業者に適用します。
(6) リダイレクション網使用機能	ア 当社の中継交換機で接続する協定事業者の通信経路を設定するために当社の加入者交換機を利用してリダイレクションを行う機能	1通信ごとに	<u>0.035872円</u>	携帯・自動車電話事業者、PHS接続地域事業者、国際系事業者、中継事業者、活用型PHS事業者又は端末系事業者に適用します。
	イ 特定中継事業者の中継交換機で接続する協定事業者の通信経路を設定するために当社の加入者交換機を利用してリダイレクションを行う機能	1通信ごとに	<u>0.025614円</u>	
(7)～(9) (略)	(略)	(略)	(略)	(略)
(10) PHS制御信号機能	加入者交換機及び共通線信号網を利用して、活用型PHS事業者の提供する着信転送機能においてPHS網制御局に転送先の契約者回線番号等の登録を行う機能	活用型PHS事業者の提供する着信転送機能の1契約者ごとに月額	<u>1.7062円</u>	活用型PHS事業者又は特定端末系事業者に適用します。
(11)～(22) (略)	(略)	(略)	(略)	(略)

2 - 1 2 ~ 2 - 1 4 (略)

(5) 課金秒数送出機能	共通線信号網を利用して、接続型PHS事業者が指定する利用者料金の課金のための情報を送信する機能	1通信ごとに	<u>0.031580円</u>	PHS接続地域事業者又は特定端末系事業者に適用します。
(6) リダイレクション網使用機能	ア 当社の中継交換機で接続する協定事業者の通信経路を設定するために当社の加入者交換機を利用してリダイレクションを行う機能	1通信ごとに	<u>0.035088円</u>	携帯・自動車電話事業者、PHS接続地域事業者、国際系事業者、中継事業者、活用型PHS事業者又は端末系事業者に適用します。
	イ 特定中継事業者の中継交換機で接続する協定事業者の通信経路を設定するために当社の加入者交換機を利用してリダイレクションを行う機能	1通信ごとに	<u>0.024539円</u>	
(7)～(9) (略)	(略)	(略)	(略)	(略)
(10) PHS制御信号機能	加入者交換機及び共通線信号網を利用して、活用型PHS事業者の提供する着信転送機能においてPHS網制御局に転送先の契約者回線番号等の登録を行う機能	活用型PHS事業者の提供する着信転送機能の1契約者ごとに月額	<u>1.6690円</u>	活用型PHS事業者又は特定端末系事業者に適用します。
(11)～(22) (略)	(略)	(略)	(略)	(略)

2 - 1 2 ~ 2 - 1 4 (略)

第2表 工事費及び手続費

- 第1 工事費
 2 工事費の額
 2-1 工事費

区 分			単 位	工事費の額	備 考
(1)～(32) (略)			(略)	(略)	(略)
(33) 加入者交換機等接続回線設置等工事費	加入者交換機等接続回線設置等工事に要する費用	ア イ以外の場合	672回線 (50Mbit/s相当)ごとに	249,231円	_____
		イ 第23条(接続用設備の設置又は改修の申込み)第1項又は第4項に係る申込みにより工事を行う場合	672回線 (50Mbit/s相当)ごとに	508,431円	_____
(34)～(37) (略)			(略)	(略)	(略)

第2表 工事費及び手続費

- 第1 工事費
 2 工事費の額
 2-1 工事費

区 分			単 位	工事費の額	備 考
(1)～(32) (略)			(略)	(略)	(略)
(33) 加入者交換機等接続回線設置等工事費	加入者交換機等接続回線設置等工事に要する費用	ア イ以外の場合	672回線 (50Mbit/s相当)ごとに	220,090円	_____
		イ 第23条(接続用設備の設置又は改修の申込み)第1項又は第4項に係る申込みにより工事を行う場合	672回線 (50Mbit/s相当)ごとに	387,358円	_____
(34)～(37) (略)			(略)	(略)	(略)

附 則

この改正規定は、認可を受けた後、平成20年4月1日から実施します。

平成 2 0 年度網使用料算定根拠

目 次

1 . 接続料の変更に際し用いる通信量等の予測について	1
2 . 平成 2 0 年度網使用料の算定について【西日本】	4
. 算定手順	5
. 原価の算定及び料金の設定	6
. 端末回線伝送機能	6
. 投資等比率及び貯蔵品比率の算定	7
. 接続料収納までの平均的な日数の算定	8
. 資本構成比率の算定	9
. 他人資本利率の算定	10
. 自己資本利益率の算定	11
. 利益対応税率の算定	12
. 料金設定に使用した回線数	13
. 料金設定に使用した保守換算係数	14
. 料金設定に使用した貸倒率	15
(参考)	
1. 指定設備管理運営費明細表	16
2. 設備区別の費用明細表	17
3. 設備区別固定資産明細表	18
4. 指定設備管理運営費のうち、回線数の増減に応じて	19
当該設備に係る費用が増減するものの内訳	
5. 設備区別の費用のうち、回線数の増減に応じて	20
当該設備に係る費用が増減するものの内訳	
6. 設備区別固定資産のうち、回線数の増減に応じて	21
当該設備に係る費用が増減するものの内訳	
7. 指定設備管理運営費明細表(ドライカップ電話回線数を含む)	22
8. 設備区別の費用明細表(ドライカップ電話回線数を含む)	23
9. 設備区別固定資産明細表(ドライカップ電話回線数を含む)	24

3 . 平成 2 0 年度網使用料の算定について【東西合算】	25
. 算定手順	26
. 原価の算定及び料金の設定	27
1. 端末系交換機能	27
2. 市内伝送機能	28
3. 中継系交換機能	29
4. 中継伝送機能	30
5. 信号伝送機能	35
6. その他の機能	36
. 投資等比率及び貯蔵品比率の算定	38
. 接続料収納までの平均的な日数の算定	39
. 資本構成比率の算定	40
. 他人資本利率の算定	41
. 自己資本利益率の算定	42
. 利益対応税率の算定	43
. 料金設定に使用したトラヒック	44
. 料金設定に使用した回線数	45
. 料金設定に使用した貸倒率	46
(参考)	
1. 指定設備管理運営費明細表	47
2. 設備区別の費用明細表	48
3. 設備区別固定資産明細表	49

1. 接続料の変更に際し用いる通信量等の予測について

接続料規則附則（平成20年2月8日総務省令第10号）第15項の規定に基づき、電気通信事業法第33条第5項の機能に係る接続料の変更に際し、同項の機能に係る通信量等について、以下の予測値を用いることとします。

	項目	データ時期	構成比	備考
通信量	(ア) 単位料金区域別通信量（通信回数・通信時間）	H19下+H20上予測	H19年度上期実績	(1)を参照。
	(イ) 都道府県別通信量（通信回数・通信時間）	H19下+H20上予測		単位料金区域別通信量を積み上げて算定。
	(ウ) MA内呼比率、MA間ZA内呼比率、GC接続呼比率	H19下+H20上予測		単位料金区域別通信量を用いて算定。
	(エ) CR（アナログ、ISDN、PHS）	H19下+H20上予測		H18実績CRに、H17実績 H18実績トレンドを加味して算定。
	(オ) 平均保留時間（アナログ、ISDN、PHS）	H19下+H20上予測		H18実績平均保留時間に、(ア)で算定した予測総通信量とH18実績通信量の変動率を乗じて算定。
回線数	単位料金区域別回線数 (カ) $\left[\begin{array}{l} \text{加入電話（事務用・住宅用）} \\ \text{INSネット64（事務用・住宅用）} \\ \text{INSネット1500} \\ \text{公衆電話（アナログ・デジタル）} \\ \text{一般専用（2線式・4線式）} \\ \text{高速デジタル（メタル・光）} \end{array} \right]$	H19年度未予測	H18年度未実績	(2)を参照。
	都道府県別回線数 (キ) $\left[\begin{array}{l} \text{一般専用（2線式・4線式）} \\ \text{高速デジタル（メタル・光）} \\ \text{ATM専用（1心式・2心式）} \\ \text{ATMデータ伝送} \end{array} \right]$	H19年度未予測	H18年度未実績	(2)を参照。
	収容局別回線数 (ク) $\left[\begin{array}{l} \text{フレッツ・ADSL} \\ \text{Bフレッツ} \\ \text{占有タイプ}^1、\text{ファミリー100及びNTT東日本の} \\ \text{ニューファミリー}^2、\text{ファミリー、マンション}^3 \end{array} \right]$	H19年度未予測	H18年度未実績	(2)を参照。
	(ケ) PHS基地局回線数	H19年度未予測	H18年度未実績	(2)を参照。
その他	(コ) 中継伝送共用機能回線数	H19年度未予測		H20.3末時点の申込み回線数。
	(サ) 中継伝送専用機能回線数	H19年度未予測		H20.3末時点の申込み回線数。
	(シ) 総信号数	H19下+H20上予測		$1\text{呼あたり信号数} \times (\text{H19下+H20上予測GC経由回数} + \text{IC経由回数}) \div 2$

1：ビジネス、ベーシック及び光プレミアムエンタープライズ。 2：光プレミアムファミリー及びNTT東日本のハイパーファミリーを含む。 3：ワイヤレス及び光プレミアムマンションを含む。

(1) 通信量の予測

東日本・西日本別、通信回数・通信時間別、通話形態別に、予測通信量を次のとおり算定します。

$$\text{平成19年度下期} + \text{平成20年度上期予測通信量} = \text{平成18年度下期} + \text{平成19年度上期実績通信量} \times (1 + \text{対前年同期予測増減率})$$

対前年同期予測増減率は、平成19年10月～平成20年1月までの主要な通信量の対前年同期増減率及び平成20年2～9月の対前年同期予測増減率を、平成18年度下期+平成19年度上期の構成比を用いて加重平均して算定。

(単位：千回・千時間)

		主要な通信量による算定					総通信量による算定		
		H19.10月～H20.1月の対前年同期増減率	H20.2～9月の対前年同期予測増減率 ⁽¹⁾	H18年度下期+H19年度上期の構成比		対前年同期予測増減率	H18年度下期+H19年度上期実績通信量	H19年度下期+H20年度上期予測通信量	
				H18.10月～H19.1月	H19.2～9月				
						= × + ×		= × (1+)	
東日本	通信回数	MA内	24.3%	22.9%	36.3%	63.7%	23.4%	7,107,515	5,443,493
		MA間ZA内	21.6%	20.8%	36.1%	63.9%	21.0%	2,738,847	2,162,459
		GC接続	18.3%	13.9%	34.9%	65.1%	15.4%	24,579,224	20,787,109
		ZC接続	1.6%	4.5%	34.4%	65.6%	2.4%	15,919,885	15,540,008
	通信時間	MA内	26.1%	24.9%	36.4%	63.6%	25.3%	248,438	185,463
		MA間ZA内	25.5%	24.5%	36.5%	63.5%	24.8%	100,540	75,568
		GC接続	20.1%	15.8%	35.1%	64.9%	17.3%	848,509	701,726
		ZC接続	1.6%	4.5%	34.1%	65.9%	2.5%	569,736	555,714
西日本	通信回数	MA内	25.4%	24.2%	36.4%	63.6%	24.7%	6,993,454	5,269,273
		MA間ZA内	23.4%	22.6%	36.4%	63.6%	22.9%	3,453,072	2,663,790
		GC接続	8.4%	7.1%	34.2%	65.8%	7.5%	21,505,329	19,888,943
		ZC接続	9.2%	9.8%	34.7%	65.3%	9.6%	17,672,158	15,976,822
	通信時間	MA内	26.7%	26.3%	36.6%	63.4%	26.4%	246,393	181,289
		MA間ZA内	25.4%	25.5%	36.7%	63.3%	25.5%	126,081	93,968
		GC接続	10.5%	8.9%	34.3%	65.7%	9.4%	688,665	623,743
		ZC接続	8.4%	9.2%	34.3%	65.7%	8.9%	613,127	558,412

1：H19.4月～H20.1月の対前年同期増減率。

(2) 回線数の予測

平成19年度末の予測回線数を次の通り算定します。

PHS基地局回線以外

$$\text{平成19年度末予測回線数} = \text{平成18年度末実績回線数} + \text{平成19年度予測純増数}$$

平成19年度予測純増数は、平成19年4月～平成20年1月までの実績純増数に、平成20年2～3月の予測純増数を加えて算定。

平成20年2～3月の予測純増数は、平成19年2～3月の実績純増数に、平成19年4月～平成20年1月の純増数の対前年同期増減数の単月平均の2ヶ月分を加えて算定。

PHS基地局回線

$$\text{平成19年度末予測回線数} = \text{平成20年1月末実績回線数} + \text{平成20年2月～3月予測純増数}$$

平成20年2月～3月予測純増数は、平成19年2月～3月の実績純増数と同として算定。

(単位：千回線)

		純増数の算定					回線数の算定				
		H18.4月～H19.1月 実績	H19.2～3月実績	H19.4月～H20.1月 実績	H19.4～H20.1月 の対前年同期増減 数の単月平均	H20.2～3月の 対前年同期増減 数の単月平均	H20.2～3月 予測純増数	H19年度 予測純増数	H18年度末 実績回線数	H19年度末 予測回線数	
					$= \frac{(\quad - \quad)}{10}$	$=$	$= + \times 2$	$= +$		$= +$	
東 日 本	加入電話	事務用	300	64	329	3	3	70	399	4,773	4,374
		住宅用	1,070	283	1,176	11	11	304	1,480	16,620	15,140
	(再掲)ライト	事務用	34	12	9	3	3	7	16	304	320
		住宅用	25	7	19	4	4	16	35	563	529
	INSネット64	事務用	165	37	193	3	3	42	236	2,674	2,439
		住宅用	148	30	115	3	3	23	138	688	550
	(再掲)ライト	事務用	0	1	17	2	2	2	19	403	384
		住宅用	12	2	11	0	0	2	12	58	45
	INSネット1500		1	0	2	0	0	0	2	37	35
	公衆電話	アナログ	11	3	9	0	0	2	11	114	103
		デジタル	2	0	3	0	0	0	3	58	55
	一般専用	2線式	21	6	14	1	1	4	19	181	162
		4線式	12	1	11	0	0	1	13	188	176
	高速 デジタル	メタル	27	4	21	1	1	3	24	180	156
		光	3	1	2	0	0	0	2	12	11
	ATM専用		1	1	1	0	0	1	1	5	4
	ATMデータ伝送		2	1	5	0	0	2	7	37	30
	フレッツ・ADSL		140	78	290	15	15	108	398	2,782	2,384
	Bフレッツ	占有タイプ ¹	15	3	8	1	1	2	10	125	135
		ニューファミリー ³	646	179	724	8	8	194	918	1,902	2,820
ファミリー		1	0	0	0	0	0	0	3	3	
マンション ⁵		542	126	571	3	3	131	702	1,369	2,071	
PHS基地局回線 ⁷											
西 日 本	加入電話	事務用	257	59	318	6	6	71	389	4,762	4,373
		住宅用	1,236	300	1,237	0	0	300	1,537	17,189	15,652
	(再掲)ライト	事務用	41	16	7	3	3	9	16	273	289
		住宅用	51	2	4	5	5	12	16	506	490
	INSネット64	事務用	124	32	178	5	5	43	221	2,586	2,365
		住宅用	139	24	104	4	4	17	121	630	509
	(再掲)ライト	事務用	3	2	10	1	1	0	10	307	296
		住宅用	9	1	9	0	0	1	10	47	37
	INSネット1500		1	0	1	0	0	0	22	20	
	公衆電話	アナログ	13	2	12	0	0	1	14	139	125
		デジタル	2	0	3	0	0	0	3	50	47
	一般専用	2線式	17	4	10	1	1	3	13	169	156
		4線式	9	0	14	1	1	1	15	194	179
	高速 デジタル	メタル	21	4	13	1	1	2	15	147	132
		光	2	0	1	0	0	0	1	7	6
	ATM専用		0	1	0	0	0	1	1	5	3
	ATMデータ伝送		1	0	3	0	0	1	4	35	32
	フレッツ・ADSL		93	48	223	13	13	74	297	2,541	2,244
	Bフレッツ	占有タイプ ²	11	3	6	0	0	2	8	86	95
		ファミリー100 ⁴	605	129	551	5	5	118	668	1,799	2,468
ファミリー		0	0	0	0	0	0	0	2	2	
マンション ⁶		316	84	369	5	5	95	463	789	1,252	
PHS基地局回線 ⁷											

1：ビジネス及びベーシック。 2：ビジネス、ベーシック及び光プレミアムエンタープライズを含む。 3：ハイパーファミリーを含む。

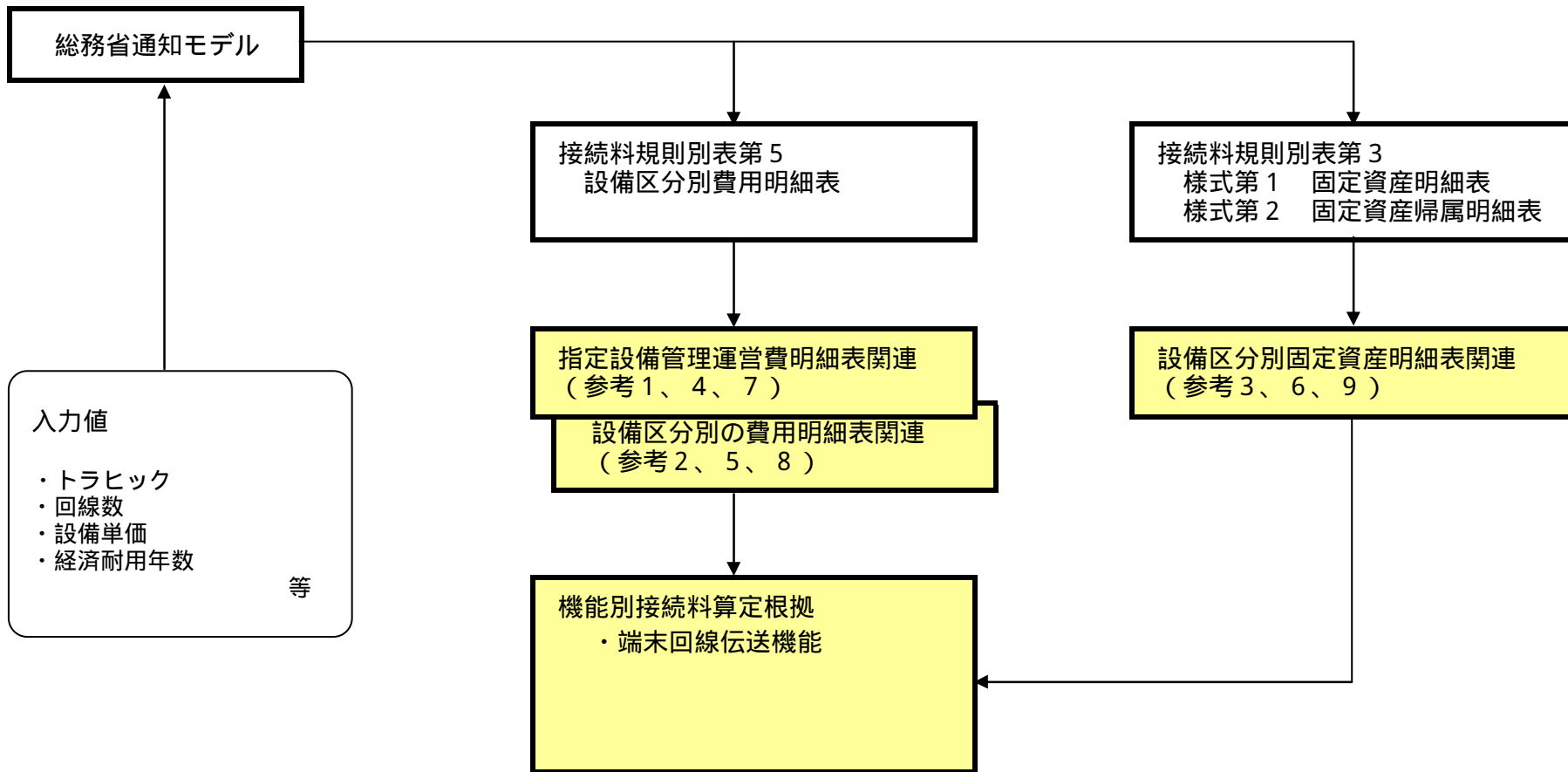
4：光プレミアムファミリーを含む。 5：ワイヤレスを含む。 6：光プレミアムマンション及びワイヤレスを含む。

7：PHS基地局回線については、平成20年1月末実績回線数に、平成20年2月～3月予測純増数(平成19年2月～3月の実績純増数と同)を加えて算定。

2 . 平成 2 0 年度網使用料の算定について

(西日本の原価及び回線数に基づく接続料)

.算定手順



原価の算定及び料金の設定

端末回線伝送機能

(1)原価の算定

(百万円)

区分	端末系伝送路				回線数の増減に応じて当該設備に係る費用が増減するものの内訳		備考
	加入者回線	主配線盤	OCU	GC・アナログ局内回線収容部以外	GC以下の伝送路・アナログ局内回線収容部以外		
指定設備管理運営費	319,106	306,016	3,382	9,709	17,528	57,334	(参考2)、(参考5)、及び(参考8)より
他人資本費用	10,924	10,603	157	165	305	2,432	$(1 - \text{他人資本比率}) \times \text{他人資本比率}$
自己資本費用	31,455	30,529	451	476	879	7,003	$(1 - \text{自己資本比率}) \times \text{自己資本比率}$
利益対応税	21,946	21,300	315	332	613	4,886	$(\text{自己資本費用} + (\text{有利子負債以外の負債の額} \times \text{利子相当率})) \times \text{利益対応税率}$
合計	383,432	368,448	4,304	10,681	19,325	71,655	+ + +
正味固定資産	1,450,421	1,407,894	20,895	21,632	39,903	325,191	(参考3)、(参考6)、及び(参考9)より
投資等	4,496	4,364	65	67	124	1,008	正味固定資産 × 投資等比率
貯蔵品	15,229	14,783	219	227	419	3,415	正味固定資産 × 貯蔵品比率
運転資本	21,904	21,071	204	629	1,236	2,576	$(\text{設備管理運営費} - (\text{減価償却費} + \text{通信設備使用料} + \text{固定資産税})) \times 45.625 \div 365 \text{日}$
レートベース	1,492,051	1,448,112	21,383	22,555	41,681	332,190	+ + +
有利子負債以外の負債の額	151,258	146,804	2,168	2,287	4,225	33,676	$(1 - \text{他人資本比率}) \times \text{他人資本比率} \times \text{有利子負債以外の負債の額の合計に占める割合}$
減価償却費	125,732	119,770	1,501	4,461	7,235	33,318	
通信設備使用料	0	0	0	0	0	0	(参考2)、(参考5)、及び(参考8)より
固定資産税	18,142	17,677	248	216	407	3,406	

(2)料金の設定

A.施設設置負担金にかかる加算料相当コストの算定

区分	コスト等	備考
施設設置負担金の額(円/回線)	36,000	
平均償却年数(年)	14	任職記録対象設備の平均償却期間(平成18年度実績)
年間減価償却費(円)	2,571	=
他人資本費用(円)	132	$(1 - \text{他人資本比率}) \times \text{他人資本比率}$
自己資本費用(円)	379	$(1 - \text{自己資本比率}) \times \text{自己資本比率}$
利益対応税(円)	265	$(\text{自己資本費用} + (\text{有利子負債以外の負債の額} \times \text{利子相当率})) \times \text{利益対応税率}$
加算料(円/回線・年)	3,347	+ + +
施設設置負担金の適用のないP-C-2の回線数	1,112,080	・料金設定に使用した回線数より
公衆電話端末回線数	171,773	・料金設定に使用した回線数より
加算料相当コスト(百万円)	4,298	$\times (+)$
レートベース(円/回線)	18,000	$\times 0.5(1 - \text{残高率})$
有利子負債以外の負債の額(円)	1,825	$(1 - \text{他人資本比率}) \times \text{他人資本比率} \times \text{有利子負債以外の負債の額の合計に占める割合}$

B.加入者回線

区分	コスト等	備考
a.原価(百万円)	364,150	A-I
A.加入者回線	368,448	(1)の加入者回線
I.加算料相当コスト	4,298	Aの加算料相当コスト
b.回線数(回線)	25,358,947	・料金設定に使用した回線数より
c.1回線あたりコスト(円/回線・月)	1,197	$a \div b \div 12 \text{月}$

C.主配線盤

区分	コスト等	備考
a.原価(百万円)	4,304	(1)の主配線盤
b.回線数(回線)	25,358,947	・料金設定に使用した回線数より
c.1回線あたりコスト(円/回線・月)	14	$a \div b \div 12 \text{月}$

D.OCU

区分	コスト等	備考
a.原価(百万円)	10,681	(1)のOCU
b.OCU使用回線数(回線)	3,237,673	・料金設定に使用した回線数より
c.1回線あたりコスト(円/回線・月)	275	$a \div b \div 12 \text{月}$

E.回線数の増減に応じて費用が増減するもの

区分	コスト等	備考
a.原価(百万円)	12,760	$(A - I - W) \times 2 / 3$
A.回線数の増減に応じて費用が増減するもの	19,325	(1)の回線数の増減に応じて当該設備に係る費用が増減するものの内訳 GC・アナログ局内回線収容部以外
I.付加機能控除額	116	$A \times \text{付加機能控除率}(0.006)$
W.回線工事費補正額	70	総務省モデルによる算定値
b.回線数(回線)	23,386,745	・料金設定に使用した回線数より
c.1回線あたりコスト(円/回線・月)	45	$a \div b \div 12 \text{月}$

GC以下の伝送路

区分	コスト等	備考
a.原価(百万円)	41,673	$A \times 2 / 3 - I \times 1 / 5$
A.回線数の増減に応じて費用が増減するもの	71,655	(1)の回線数の増減に応じて当該設備に係る費用が増減するものの内訳 GC以下の伝送路・アナログ局内回線収容部以外
I.交換機設置費用に設置するもので、現に設置する遠隔収容装置設置局のもの	30,483	総務省モデルによる算定値
b.回線数(回線)	23,386,745	・料金設定に使用した回線数より
c.1回線あたりコスト(円/回線・月)	148	$a \div b \div 12 \text{月}$

PHS基地局回線機能

(7)保守の区分がタイプ1-1のもの

区分	料金	備考
料金(円/回線・月)	1,680	$B \text{の} c + C \text{の} c + D \text{の} c + E \text{の} c + G \text{の} c + E \text{の} G \text{以下の伝送路の} c \times (1 + \dots)$.料金設定に使用した賃借率

(4)保守の区分がタイプ1-2のもの

区分	料金	備考
料金(円/回線・月)	1,680	$B \text{の} c \times \dots + C \text{の} c \times \dots + D \text{の} c \times \dots + E \text{の} c + E \text{の} G \text{以下の伝送路の} c \times (1 + \dots)$.料金設定に使用した賃借率

投資等比率及び貯蔵品比率の算定

(1) 投資等比率の算定

(単位：百万円)

区分	H18年度首末平均残高
指定設備管理部門の電気通信事業固定資産	2,536,101 (A)
指定設備管理部門における投資等(収益の見込まれないもの) ()	7,749 (B)
投資等比率 (B ÷ A)	0.0031 (C)

投資等は、収益性が見込まれない出資金、保証金・負担金等である。

(2) 貯蔵品比率の算定

(単位：百万円)

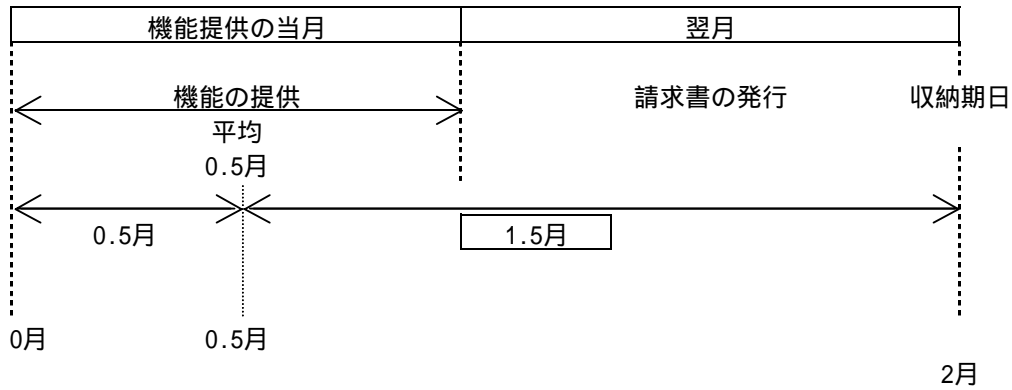
区分	H18年度首末平均残高
電気通信事業固定資産	2,995,707 (A)
貯蔵品 ()	31,462 (B)
貯蔵品比率 (B ÷ A)	0.0105 (C)

貯蔵品は、現用に供されるまでの間保管されている電気通信設備用品（新品）であり、金額は月末在庫額の年平均値である。

(注)なお繰延資産比率については、繰延資産が発生していないので無しとする。

接続料収納までの平均的な日数の算定

(1)機能の提供と接続料の収納までの日程



(2)機能の提供から当該機能に係る接続料の収納までの平均的な日数の算定

機能の提供から当該機能に係る接続料の収納までの平均的な日数

$$= \frac{1.5 \text{ ヲ月}}{12 \text{ ヲ月}} \times 365 \text{ 日} = \boxed{45.625 \text{ 日}}$$

(1)より

資本構成比率の算定

(1) 資本の状況

(単位：百万円)

B / S (H 1 8) 稼働ベース			レートベース		(資本構成)	
電気通信事業 固定資産	有利子負債 1,307,131 (0.333)	圧縮後の資本構成比	H 1 8 稼働 電気通信事業固定資産 2,995,707	有利子負債	1,307,131 (0.411)	
2,995,707	その他の負債 477,676 (0.122)			退職給付引当金 322,726 (0.101)		
	退職給付引当金 590,541 (0.150)	流動資産の 圧縮 745,491	貯蔵品(月平均)	31,462		
流動資産等 930,719	自己資本 1,551,077 (0.395)		185,228	投資等	9,153	
計	3,926,426	流動資産の理論値と 実績の差 185,228-930,719= 745,491	計	3,180,935	計	3,180,935

(2) 他人資本比率

$$\text{他人資本比率} = \frac{(1,307,131 + 322,726)}{\text{負債}} \div \frac{3,180,935}{\text{負債資本合計}} = \boxed{0.512}$$

(3) 有利子負債が負債の合計に占める比率

$$\text{有利子負債が負債の合計に占める比率} = \frac{1,307,131}{\text{有利子負債}} \div \frac{(1,307,131 + 322,726)}{\text{負債の合計}} = \boxed{0.802}$$

(4) 有利子負債以外の負債が負債の合計に占める割合

$$\text{有利子負債以外の負債が負債の合計に占める割合} = 1 - \frac{0.802}{\text{有利子負債が負債の合計に占める比率}} = \boxed{0.198}$$

(5) 自己資本比率

$$\text{自己資本比率} = 1 - \frac{0.512}{\text{他人資本比率}} = \boxed{0.488}$$

他人資本利率の算定

(1)有利子負債に対する利率

有利子負債の額に対する他人資本費用の平成18年度実績とした。

有利子負債に対する利率 =

(単位：%)

年度	18
区分	
他人資本利率	1.44

(注)借入金の平均利率である。

(2)有利子負債以外の負債の利率相当率

国債利回りの過去5年平均とした。

有利子負債以外の負債の利率相当率 =

(単位：%)

年度	14	15	16	17	18	平均
区分						
他人資本利率	1.13	1.11	1.52	1.40	1.79	1.39

(注)国債(利付・10年物)の平均利回りである。

(3)他人資本利率

他人資本利率 = $1.44\% \times 0.802 + 1.39\% \times 0.198 =$

(有利子負債に対する利率 × 有利子負債比率 + 国債利回り × 有利子負債以外の負債の比率)

自己資本利益率の算定

1. CAPM的手法による自己資本利益率

(単位：%)

区分	年度			平均(注4)	
	16	17	18	3年平均	
主要企業の自己資本利益率(注1)	5.39	7.08	5.97	-	
値の適用				-	
リスクフリーレート(注2)	1.52	1.40	1.79	-	
-	3.87	5.68	4.18	-	
選択される自己資本利益率	= 0.6 (注3)	3.84	4.81	4.30	4.32

(注1) 主要企業の自己資本利益率は「日経経営指標」より。但し、平成18年度は速報値である。

(注2) リスクフリーレートについては、指定設備全体の平均的な耐用年数に着目し、耐用年数が10年超であることから国債(利付・10年物)の利回りを使用した。

(注3) 値については、昨年度と同とした。

(注4) 算定期間については、3年間とした。

2. 主要企業の過去5年間の自己資本利益率

(単位：%)

区分	年度					平均
	14	15	16	17	18	
主要企業の自己資本利益率	2.61	4.83	5.39	7.08	5.97	5.18

(注) 「日経経営指標」より。ただし平成18年度は速報値である。

3. 料金算定に採用した自己資本利益率

上記1, 2を勘案し、低い方の1のCAPM的手法による自己資本利益率を採用する。

自己資本利益率 = 4.32%

利益対応税率の算定

利益対応税としては、事業税、法人税、道府県民税、市町村民税を見込んだ。

利益対応税率 = 65.40%

(算定方法)

1. 税引前利益に対する率の算定

税引前利益を y 、税額を x_n とする。

事業税実効税率

事業税額を x_1 とする。

$$x_1 = (y - x_1) \times 0.072 \qquad x_1 = \frac{0.072}{1+0.072} \times y = \underline{0.0672y}$$

法人税実効税率

法人税額を x_2 とする。

$$\begin{aligned} x_2 &= \text{事業税引後利益} \times 0.3 \\ &= (y - 0.0672y) \times 0.3 \\ &= \underline{0.2798y} \end{aligned}$$

道府県民税実効税率

道府県民税額を x_3 とする。

$$\begin{aligned} x_3 &= \text{法人税額} \times 0.05 \\ &= 0.2798y \times 0.05 = \underline{0.0140y} \end{aligned}$$

市町村民税実効税率

市町村民税額を x_4 とする。

$$\begin{aligned} x_4 &= \text{法人税額} \times 0.123 \\ &= 0.2798y \times 0.123 = \underline{0.0344y} \end{aligned}$$

税引前利益に対する利益対応税率

利益対応税額を x とする。

$$\begin{aligned} x &= x_1 + x_2 + x_3 + x_4 \\ &= \underline{0.3954y} \end{aligned}$$

2. 税引後利益に対する率の算定

税引後利益を z 、税引前利益を y 、税額を x とする。

$$\text{利益対応税率} = \frac{x}{z} = \frac{0.3954y}{(1-0.3954)y} = \frac{0.3954y}{0.6046y} = 0.6540$$

税引前利益 y
利益対応税 $x = 0.3954y$
税引後利益 $z = (1-0.3954)y$

・料金設定に使用した回線数

端末回線数等

・加入者回線、MDF算定等に使用した予測回線数

	回線数 (回線)
加入者回線	
加入電話回線数	20,024,186
ISDN64回線数	2,874,480
アナログ公衆電話回線数	124,886
デジタル公衆電話回線数	46,887
計	23,070,439
加入者回線(ドライカップ電話回線数を含む)	
加入電話回線数	22,142,298
ISDN64回線数	3,044,876
アナログ公衆電話回線数	124,886
デジタル公衆電話回線数	46,887
計	25,358,947
(再掲)施設設置負担金の適用のないサービスの回線数	
加入電話ライト回線数	778,728
ISDN64ライト回線数	333,352
計	1,112,080
(再掲)公衆電話端末回線数	
アナログ公衆電話回線数	124,886
デジタル公衆電話回線数	46,887
計	171,773

・OCU算定に使用した予測回線数

	回線数 (回線)
OCU使用回線数	3,237,673

. 料金設定に使用した保守換算係数

区分	コスト等	備考
タイプ1-2のもの	1.00	実際費用方式に基づく平成20年度接続料に関する網使用料算定根拠 (平成20年1月9日認可申請)より

・料金設定に使用した貸倒率

	コスト等	備考
接続料の貸倒額	0	H18年度実績 (実際費用方式に基づく平成20年度接続料に関する網使用料算定根拠(平成20年1月9日認可申請)の参考1.設備区分別の費用明細表より)
接続料	315,627	H18年度実績 (接続会計報告書 様式第1 第一種指定設備管理部門の受取網使用料、接続装置使用料収入、網改造料収入の合計)
貸倒率	0.00000%	÷

指定設備管理運営費のうち、回線数の増減に応じて当該設備に係る費用が増減するものの内訳【西日本】

(単位：百万円)

設備区分等						
	G C	右 記 以 外	ア ナ ロ グ 局 内 回 線 収 容 部	G C 以 下 の 伝 送 路	右 記 以 外	ア ナ ロ グ 局 内 回 線 収 容 部
固定回線の項目						
色線点通隔収容装置	-	-	-	13,677	13,677	-
同設置通隔収容装置	-	-	-	-	-	-
加入者交換機	-	-	-	-	-	-
主配線盤	1,358	1,358	-	1,904	1,904	-
加入者系半固定バス伝送装置	2,805	2,805	-	-	-	-
光ケーブル成端架	102	102	-	94	94	-
消防警報トランク	-	-	-	-	-	-
警察消防用回線集約装置	-	-	-	-	-	-
中継交換機	-	-	-	-	-	-
伝送装置	-	-	-	-	-	-
中間中継伝送装置	-	-	-	848	848	-
海底中間中継伝送装置	-	-	-	10	10	-
無線伝送装置	-	-	-	231	231	-
無線アンテナ	-	-	-	29	29	-
無線鉄塔	-	-	-	60	60	-
衛星通信設備	-	-	-	1,307	1,307	-
クロック供給装置	-	-	-	4	4	-
メタルケーブル	-	-	-	-	-	-
加入系光ケーブル	-	-	-	-	-	-
中継系光ケーブル	-	-	-	8,513	8,513	-
海底光ケーブル	-	-	-	1,326	1,326	-
加入系電柱	-	-	-	-	-	-
中継系電柱	-	-	-	687	687	-
加入系管路	-	-	-	-	-	-
中継系管路	-	-	-	19,764	19,764	-
加入系中口径管路	-	-	-	-	-	-
中継系中口径管路	-	-	-	66	66	-
加入系共同溝	-	-	-	-	-	-
中継系共同溝	-	-	-	32	32	-
加入系とう道	-	-	-	-	-	-
中継系とう道	-	-	-	151	151	-
電線共同溝	-	-	-	-	-	-
自治体管路	-	-	-	-	-	-
情報ボックス	-	-	-	-	-	-
総合デジタル通信局内回線終端装置	-	-	-	-	-	-
アナログ局内回線収容部	21,645	-	21,645	15,487	-	15,487
アナログ・デジタル回線共通部	13,263	13,263	-	8,630	8,630	-
加入者交換回線収容装置	-	-	-	-	-	-
中継交換回線収容装置	-	-	-	-	-	-
信号用中継交換機	-	-	-	-	-	-
専用回線管理運営費	-	-	-	-	-	-
合計	39,174	17,528	21,645	72,820	57,334	15,487

(参考5)

設備区分別の費用のうち、回線数の増減に応じて当該設備に係る費用が増減するものの内訳【西日本】

(単位：百万円)

設備区分等	G		C		アナログ局内回線収容部	
	右記以外	アナログ局内回線収容部	G	C	右記以外	アナログ局内回線収容部
費用の項目						
減 備 償 却 費	15,907	7,235	8,672	42,883	33,318	9,564
通 信 設 備 使 用 料	-	-	-	-	-	-
固 定 資 産 税	800	407	393	3,920	3,406	514
施 設 保 全 費	18,128	7,954	10,174	18,484	14,401	4,083
通 路 占 用 料	-	-	-	603	602	1
撤 去 費 用	244	123	121	1,551	1,392	159
試 験 研 究 費	1,150	515	635	2,211	1,742	470
接 続 関 連 事 務 費	1	1	1	8	7	1
管 理 共 通 費	2,943	1,293	1,650	3,160	2,465	695
合 計	39,174	17,528	21,645	72,820	57,334	15,487

設備区分別固定資産のうち、回線数の増減に応じて当該設備に係る費用が増減するものの内訳【西日本】

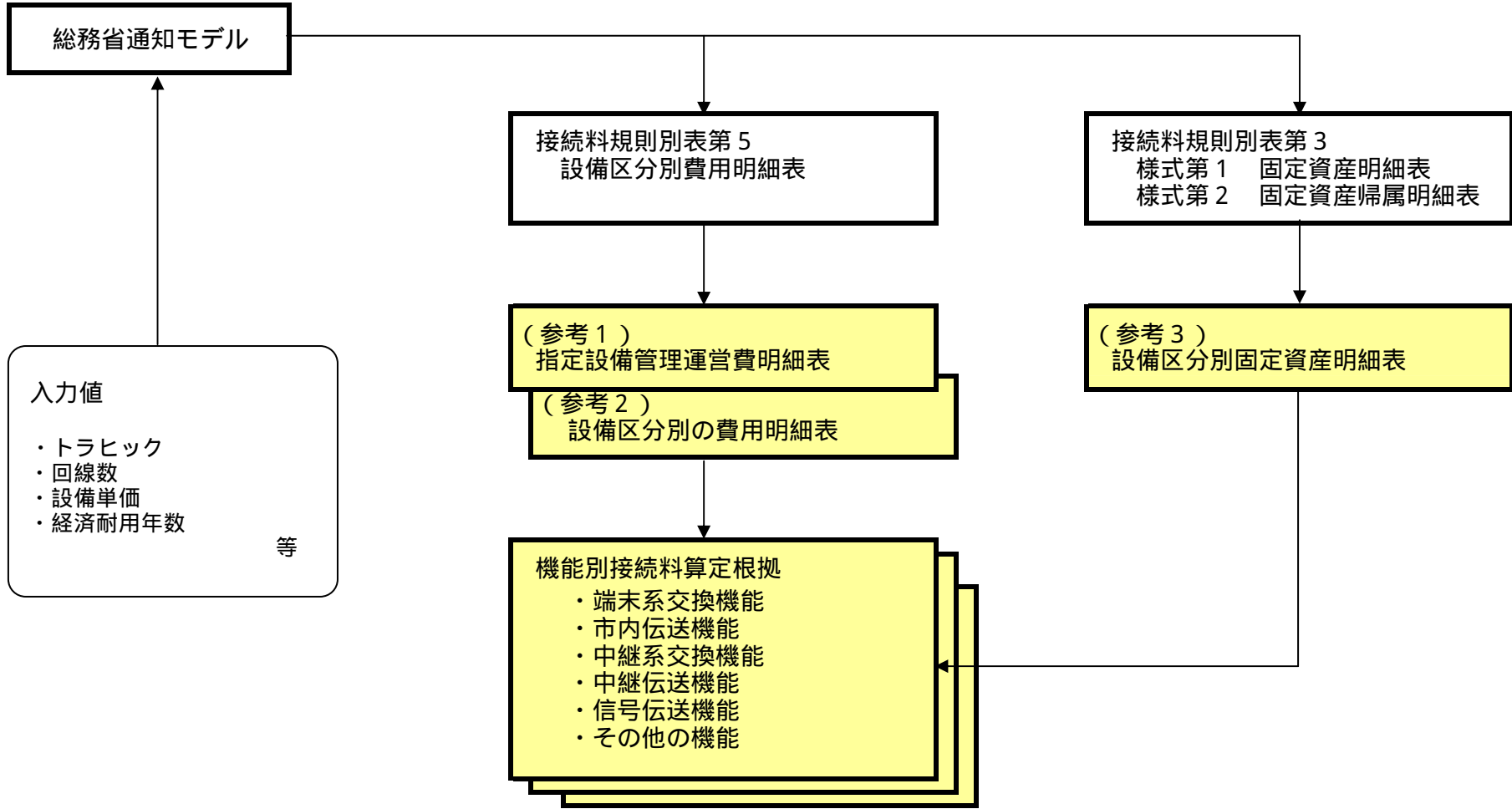
(単位:百万円)

設備区分等	G C	右記 以外	アナ ログ 局内 回線 収容 部	G C 以 下 の 伝 送 路	右記 以外	アナ ログ 局内 回線 収容 部
固定資産の項目						
き線点遠隔収容装置	-	-	-	30,494	30,494	-
局設置遠隔収容装置	-	-	-	-	-	-
加入者交換機	-	-	-	-	-	-
主配線盤	1,498	1,498	-	1,579	1,579	-
加入者系半固定バス伝送装置	3,862	3,862	-	-	-	-
光ケーブル成端架	44	44	-	55	55	-
消防警報トランク	-	-	-	-	-	-
警察消防用回線集約装置	-	-	-	-	-	-
中継交換機	-	-	-	-	-	-
伝送装置	-	-	-	-	-	-
中間中継伝送装置	-	-	-	1,475	1,475	-
海底中間中継伝送装置	-	-	-	43	43	-
無線伝送装置	-	-	-	510	510	-
無線アンテナ	-	-	-	153	153	-
無線鉄塔	-	-	-	304	304	-
衛星通信設備	-	-	-	3,783	3,783	-
クロック供給装置	-	-	-	8	8	-
メタルケーブル	-	-	-	-	-	-
加入系光ケーブル	-	-	-	-	-	-
中継系光ケーブル	-	-	-	8,898	8,898	-
海底光ケーブル	-	-	-	2,782	2,782	-
加入系電柱	-	-	-	-	-	-
中継系電柱	-	-	-	5,407	5,407	-
加入系管路	-	-	-	-	-	-
中継系管路	-	-	-	214,912	214,912	-
加入系中口径管路	-	-	-	-	-	-
中継系中口径管路	-	-	-	738	738	-
加入系共同溝	-	-	-	-	-	-
中継系共同溝	-	-	-	369	369	-
加入系とう道	-	-	-	-	-	-
中継系とう道	-	-	-	1,771	1,771	-
電線共同溝	-	-	-	-	-	-
総合デジタル通信局内回線終端装置	-	-	-	-	-	-
アナログ局内回線収容部	14,472	-	14,472	30,466	-	30,466
アナログ・デジタル回線共通部	8,878	8,878	-	16,959	16,959	-
加入者交換回線収容装置	-	-	-	-	-	-
中継交換回線収容装置	-	-	-	-	-	-
信号用中継交換機	-	-	-	-	-	-
局舎・共通設備計	52,645	25,621	27,024	51,512	34,949	16,563
合計	81,399	39,903	41,496	372,220	325,191	47,029

3 . 平成 2 0 年度網使用料の算定について

(東西合算した原価及び通信量等に基づく接続料)

.算定手順



原価の算定及び料金の設定

1. 結束系交換機

(1) 原価の算定

(単位：百万円)

	結束系交換機											備考
	GC					緊急通報			GC以下の伝送路			
	右記以外のGC		回線数の増減に応じて当該設備に係る費用が増減するもの			加入者交換機線収専用部	加入者交換機線収共用部	緊急通報	右記以外	回線数の増減に応じて当該設備に係る費用が増減するもの		
指定設備管理運営費	448,533	232,865	230,926	133,810	79,257	4,920	12,938	1,740	215,888	72,392	143,476	(参考)より
他人資本費用	11,046	3,260	3,223	1,803	1,180	66	174	36	7,786	2,774	5,013	1-1A-2×他人資本比率×他人資本利率
自己資本費用	40,176	11,856	11,723	6,557	4,291	241	635	133	28,320	10,089	18,232	1-1A-2×自己資本比率×自己資本利率
利益対応税	27,816	8,208	8,117	4,540	2,971	167	439	92	19,608	6,985	12,623	自己資本費用+ 有利子負債以外の負債の額×利率(当分) ×利益対応税率
合計	527,571	255,989	253,988	146,709	87,688	5,394	14,187	2,001	271,582	92,239	179,343	+ +
正味固定資産価値	1,649,394	477,826	472,379	263,759	173,405	9,686	25,529	5,448	1,171,558	417,676	753,882	(参考)より
投資寄	5,773	1,672	1,653	923	607	34	89	19	4,100	1,462	2,638	正味固定資産×投資寄比率
貯蓄品	15,834	4,587	4,535	2,532	1,685	93	245	52	11,247	4,010	7,237	正味固定資産×貯蓄品比率
運転資本	26,092	16,713	16,630	9,796	5,572	359	943	84	9,376	3,009	6,370	設備管理運営費-減価償却費+通信設備使用料+固定資産税 ×45.625日÷365日
リースリース	1,697,083	500,799	495,196	276,969	181,249	10,171	26,807	5,603	1,196,284	428,156	770,127	+ + +
有利子負債以外の負債の額	189,525	50,105	49,466	27,667	18,105	1,016	2,678	560	119,469	42,570	76,899	1-1A-2×他人資本比率×有利子負債以外の負債の額の合計に占める割合
減価償却費	220,305	84,285	83,270	53,216	32,363	1,856	5,145	1,015	126,520	41,965	84,555	
通信設備使用料	2,508	0	0	0	0	0	0	0	2,508	1,991	517	(参考)より
固定資産税	16,989	4,873	4,818	2,549	1,728	94	247	55	12,315	4,367	7,948	

(2) 料金の設定

A. 信号機コストの算定

A. 信号機単位コスト

区分	コスト	備考
信号機単位コスト(円/秒)	0.916788	(2)の1の1/2

イ. 1秒あたり信号数

区分	信号数	備考
1秒あたり信号数(信号)	5.45	平成16年度実績

ウ. 通信回数

区分	通信回数(千回)	備考
1. 結束系交換機能	90,860,837	料金設定に使用した千回より
2. 中継系交換機能	36,965,074	料金設定に使用した千回より
3. 計	127,825,911	a+b

エ. 機能毎の信号機コスト

(単位：百万円)

区分	コスト	備考
1. 結束系交換機能	3,910	A×イ×ウの1/2
2. 中継系交換機能	1,590	A×イ×ウの1/2
3. 計	5,500	a+b

8. 右記以外のGCコストの算定

	右記以外のGC					備考
	右記以外	回線数の増減に応じて当該設備に係る費用が増減するもの	加入者交換機線収専用部	加入者交換機線収共用部	緊急通報	
A. 原価(百万円)	251,582	145,319	86,888	5,343	14,053	イ-ウ-エ
イ. コスト	253,888	146,709	87,688	5,394	14,187	(1)の1/2×右記以外のGC
ウ. 付加機能控除額	1,524	880	526	32	85	(イ×付加機能控除率)(0.006)
エ. 回線工事費補正額	682	509	304	19	49	回線後モデルによる算定値

C. 回線比コスト・時間比コストの算定

(単位：百万円)

	結束系交換機											信号機	合計	備考		
	GC					緊急通報			GC以下の伝送路							
	右記以外のGC		回線数の増減に応じて当該設備に係る費用が増減するもの			加入者交換機線収専用部	加入者交換機線収共用部	緊急通報	右記以外	回線数の増減に応じて当該設備に係る費用が増減するもの						
1. 回線比コスト	57,210	57,210	57,210	57,210	0	0	0	0	0	0	0	0	3,910	61,119	(イ)の1/2	
2. 時間比コスト	467,955	196,373	194,373	88,109	86,868	5,343	14,053	2,001	271,582	92,239	179,343	112,347	66,997	0	467,955	(イ)の1/2
3. 合計	525,165	253,583	251,582	145,319	86,868	5,343	14,053	2,001	271,582	92,239	179,343	112,347	66,997	3,910	529,075	(イ)のAの2のBのA、及び回線後モデルによる算定値

別表

	回線比コスト・時間比コストの比率					信号機
	右記以外のGC	回線数の増減に応じて当該設備に係る費用が増減するもの	加入者交換機線収専用部	加入者交換機線収共用部	緊急通報	
(a)	0.2274	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	1.0000
(b)	0.7726	1.0000	1.0000	1.0000	1.0000	0.0000
(c)	1.0000	1.0000	1.0000	1.0000	1.0000	1.0000

D. 料金の設定

-加入者交換機能

区分	料金等	備考
1. 原価(百万円)	61,119	Cの1の右記以外のGC+Cの4の1の信号機より
2. 通信回数(千回)	90,860,837	料金設定に使用した千回より
3. 1回あたりコスト(円/秒)	0.67267	a+b
4. 料金(円/回)	0.67267	c×(1+ 料金設定に使用した賃料率)

-時間比

区分	GC					緊急通報			GC以下の伝送路			合計	備考
	右記以外のGC		回線数の増減に応じて当該設備に係る費用が増減するもの			加入者交換機線収専用部	加入者交換機線収共用部	緊急通報	右記以外	回線数の増減に応じて当該設備に係る費用が増減するもの			
1. 原価(百万円)	107,484	105,483	88,109	17,374	2,001	141,507	92,239	49,288	22,468	26,799	248,991	A+イ+ウ	
A. コスト	176,978	174,977	88,109	86,868	2,001	271,582	92,239	179,343	112,347	66,997	448,560	Cの1/2より	
ウ. 回線数の増減に応じて当該設備に係る費用が増減するもの(通信設備)	86,888	86,888	0	86,868	0	179,343	0	179,343	112,347	66,997	266,211		
エ. 回線数の増減に応じて当該設備に係る費用が増減するもの(設備)	17,374	17,374	0	17,374	0	49,288	0	49,288	22,468	26,799	66,640	※精点通線収容装置から加入者交換機のうち、通線収容装置設置用から加入者交換機設置用間設置するもので、現に設置している通線収容装置設置用のものについては、イ×1/2、それ以外については、イ×1/2	
1. 通信時間(千時間)		3,080,694	3,080,694	3,080,694	3,080,694	3,342,634	3,342,634	3,342,634	3,342,634	3,342,634	3,342,634	...	
2. 1秒あたりコスト(円/秒)	0.0098915	0.0095111	0.0079446	0.0015665	0.0018039	0.011759	0.0076652	0.0040942	0.0018672	0.0022270	0.021450	a+b	
3. 料金(円/回)	0.0098915	0.0095111	0.0079446	0.0015665	0.0018039	0.011759	0.0076652	0.0040942	0.0018672	0.0022270	0.021450	c×(1+ 料金設定に使用した賃料率)	

-加入者交換機線収専用部

区分	料金等	備考
1. 原価(百万円)	5,343	Cの1の加入者交換機線収専用部より
2. 1.5M/2分	14,858	料金設定に使用した回線数より
3. 1.5M/2分あたりコスト(円/1.5M/2分(24回線)ごと・月)	29,847	a+b×12ヶ月
4. 料金(円/1.5M/2分(24回線)ごと・月)	29,847	c×(1+ 料金設定に使用した賃料率)

-加入者交換機線収共用部

区分	料金等	備考
1. 原価(百万円)	14,053	Cの1の加入者交換機線収共用部より
2. 通信時間(千時間)	1,486,125	料金設定に使用した千回より
3. 1秒あたりコスト(円/秒)	0.0026266	a+b
4. 料金(円/秒)	0.0026266	c×(1+ 料金設定に使用した賃料率)

2.市内伝送機能

A. 中継伝送コスト

	料金	備考
a. 時間比例料金(円/秒)	0.0054415	4の中継伝送共用機能の(2)のdより

B. 中継交換コスト

	料金	備考
a. 回数比例料金(円/回)	0.22090	3の(2)のBの中継交換機能の回数比例分のdより
b. 時間比例料金(円/秒)	0.00082969	3の(2)のBの中継交換機能の時間比例分のdより

C. 中継交換機回線対応部共用機能コスト

	料金	備考
a. 時間比例料金(円/秒)	0.00032369	3の(2)のBの中継交換機回線対応部共用機能のdより

D. 料金の設定

・回数比例分

	料金	備考
料金(円/回)	0.22090	Bのa

・時間比例分

	料金	備考
料金(円/秒)	0.012360	Aのa×2 + Bのb + Cのa×2

3. 中継系交換機能

(1) 原価の算定

(単位:百万円)

	中継系交換設備				備考
	IC	中継交換回線 収容専用部	中継交換回線 収容共用部		
指定設備管理運営費	12,124	9,395	1,174	1,555	(参考2)より
他人資本費用	192	148	19	25	レート×他人資本比率×他人資本利率
自己資本費用	697	540	67	90	レート×自己資本比率×自己資本利率
利益対応税	483	374	47	62	(自己資本費用 + (有利子負債以外の負債の額×利子相当率))×利益対応税率
合計	13,495	10,457	1,307	1,732	+ + +

正味固定資産価額	28,452	22,032	2,753	3,668	(参考3)より
投資等	100	77	10	13	正味固定資産×投資等比率
貯蔵品	273	212	26	35	正味固定資産×貯蔵品比率
運転資本	617	478	60	79	(設備管理運営費 - (減価償却費 + 通信設備使用料 + 固定資産税))×45.625日÷365日
レートベース	29,442	22,799	2,848	3,795	+ + +
有利子負債以外の負債の額	2,941	2,277	285	379	レート×他人資本比率×有利子負債以外の負債が負債の合計に占める割合
減価償却費	6,938	5,377	672	890	
通信設備使用料	0	0	0	0	(参考2)より
固定資産税	249	193	24	32	

(2) 料金の設定

A. 回数比例コスト・時間比例コストの算定

(単位:百万円)

	中継系交換設備				信号網	合計	備考
	IC	中継交換回線 収容専用部	中継交換回線 収容共用部				
a. 回数比例コスト	6,573	6,573	0	0	1,590	8,164	c×別表の(a)
b. 時間比例コスト	6,922	3,883	1,307	1,732	0	6,922	c×別表の(b)
c. 合計	13,495	10,457	1,307	1,732	1,590	15,085	(1)の、及び1の(2)のAのEのbより

別表

区分	回数比例コスト・時間比例コストの比率			
	中継系交換設備			信号網
	IC	中継交換回線 収容専用部	中継交換回線 収容共用部	
(a)	0.4871	0.0000	0.0000	1.0000
(b)	0.5129	1.0000	1.0000	0.0000
(c)	1.0000	1.0000	1.0000	1.0000

B. 料金の設定

・中継交換機能

・回数比例分

区分	料金等	備考
a. 原価(百万円)	8,164	Aのaの合計より
b. 通信回数(千回)	36,955,074	料金設定に使用したトピックより
c. 1回あたりコスト(円/回)	0.22090	a÷b
d. 料金(円/回)	0.22090	c×(1+ .料金設定に使用した貸倒率)

・時間比例分

区分	料金等	備考
a. 原価(百万円)	3,883	AのbのICより
b. 通信時間(千時間)	1,300,125	料金設定に使用したトピックより
c. 1秒あたりコスト(円/秒)	0.00082969	a÷b
d. 料金(円/秒)	0.00082969	c×(1+ .料金設定に使用した貸倒率)

・中継交換回線対応部専用機能

区分	料金等	備考
a. 原価(百万円)	1,307	Aのcの中継交換回線収容専用部より
b. 1.5M/バス数	29,556	料金設定に使用した回線数より
c. 1.5M/バスあたりコスト(円/1.5M/バス(24回線)ごと・月)	3,684	a÷b÷12ヶ月
d. 料金(円/1.5M/バス(24回線)ごと・月)	3,684	c×(1+ .料金設定に使用した貸倒率)

・中継交換回線対応部共用機能

区分	料金等	備考
a. 原価(百万円)	1,732	Aのcの中継交換回線収容共用部より
b. 通信時間(千時間)	1,486,125	料金設定に使用したトピックより
c. 1秒あたりコスト(円/秒)	0.00032369	a÷b
d. 料金(円/秒)	0.00032369	c×(1+ .料金設定に使用した貸倒率)

4. 中継伝送機能

・中継伝送共用機能

(1) 原価の算定

(単位: 百万円)

	端末系交換設備～ 中継系交換設備伝送路 (共用型)	備考
指定設備管理運営費	23,419	(参考2)より
他人資本費用	672	レートベース×他人資本比率×他人資本利率
自己資本費用	2,446	レートベース×自己資本比率×自己資本利益率
利益対応税	1,693	(自己資本費用 + (有利子負債以外の負債の額×利子相当率))×利益対応税率
合計	28,230	+ + +

正味固定資産価額	100,894	(参考3)より
投資等	353	正味固定資産×投資等比率
貯蔵品	969	正味固定資産×貯蔵品比率
運転資本	1,086	(設備管理運営費 - (減価償却費 + 通信設備使用料 + 固定資産税))×45.625日÷365日
レートベース	103,301	+ + +
有利子負債以外の負債の額	10,319	レートベース×他人資本比率×有利子負債以外の負債が負債の合計に占める割合
減価償却費	13,681	
通信設備使用料	0	(参考2)より
固定資産税	1,051	

(2) 料金の設定

区分	料金等	備考
a. 原価(百万円)	29,112	ア + イ
ア. コスト	28,230	(1)のより
イ. 回線工事費補正額	882	総務省モデルによる算定値
b. 通信時間(千時間)	1,486,125	料金設定に使用したトラフィックより
c. 1秒あたりコスト(円/秒)	0.0054415	a ÷ b
d. 料金(円/秒)	0.0054415	c × (1 + 料金設定に使用した算倒率)

・中継伝送専用機能

(1)原価の算定

(単位:百万円)

	端末系交換設備- 中継系交換設備伝 送路(専用型)	専用回線 管理運営費	MA内伝送路	MA間伝送路		接続装置	備考
				回線比例	回線距離比例		
指定設備管理運営費	4,291	9	1,697	177	174	2,234	(参考2)より
他人資本費用	124	0	73	3	10	38	レート×他人資本比率×他人資本利率
自己資本費用	450	0	264	12	35	139	レート×自己資本比率×自己資本利率
利益対応税	312	0	183	8	24	96	(自己資本費用+(有利子負債以外の負債の額×利子相当率))×利益対応税率
合計	5,177	9	2,217	200	243	2,507	+ + +

正味固定資産価額	18,612	0	10,955	487	1,460	5,710	(参考3)より
投資等	65	0	38	2	5	20	正味固定資産×投資等比率
貯蔵品	179	0	105	5	14	55	正味固定資産×貯蔵品比率
運転資本	169	1	68	7	7	86	(設備管理運営費-(減価償却費+通信設備使用料+固定資産税))×45.625日÷365日
レートベース	19,025	1	11,166	501	1,486	5,871	+ + +
有利子負債以外の負債の額	1,900	0	1,115	50	148	586	レート×他人資本比率×有利子負債以外の負債が負債の合計に占める割合
減価償却費	2,745	0	1,042	117	100	1,485	
通信設備使用料	0	0	0	0	0	0	(参考2)より
固定資産税	192	0	113	5	15	59	

(2)料金の設定

・専用回線管理運営費

区分	コスト等	備考
a.原価(百万円)	9	(1)の専用回線管理運営費のより
b.回線数(契約)	1,841	.料金設定に使用した回線数より
c.コスト(円/回線・月)	421	a÷b÷12ヶ月

・MA内伝送路

区分	コスト等	備考
a.原価(百万円)	2,217	(1)のMA内伝送路のより
b.回線数(回線)	235,558	.料金設定に使用した回線数より
c.コスト(円/回線(64kb/s)・月)	784	a÷b÷12ヶ月

・MA間伝送路

(7)回線比例分

区分	コスト等	備考
a.原価(百万円)	200	(1)のMA間伝送路・回線比例のより
b.回線数(回線)	87,642	.料金設定に使用した回線数より
c.コスト(円/回線(64kb/s)・月)	190	a÷b÷12ヶ月

(4)回線距離比例分

区分	コスト等	備考
a.原価(百万円)	243	(1)のMA間伝送路・回線距離比例のより
b.回線距離(km)	3,220,397	.料金設定に使用した回線数より
c.コスト(円/km(64kb/s)・月)	6	a÷b÷12ヶ月

・接続装置

区分	コスト等	備考
a.原価(百万円)	2,507	(1)の接続装置のより
b.回線数(回線)	287,932	.料金設定に使用した回線数より
c.コスト(円/回線(64kb/s)・月)	726	a÷b÷12ヶ月

(3)契約回線区分別の単位当たり料金

区分	中継伝送専用機能 (MA内伝送路)	備考
a.24回線単位のもの(円/月)	18,825	(2)のMA内伝送路のc×24
b.672回線単位のもの(円/月)	212,570	(2)のMA内伝送路のc×271
c.2,016回線単位のもの(円/月)	637,711	(2)のMA内伝送路のc×813

区分	中継伝送専用機能(MA間伝送路)		備考
	回線比例	回線距離比例	
a.24回線単位のもの(円/月)	4,562	151	(2)のMA間伝送路のc×24
b.672回線単位のもの(円/月)	51,513	1,707	(2)のMA間伝送路のc×271
c.2,016回線単位のもの(円/月)	154,539	5,121	(2)のMA間伝送路のc×813

区分	接続装置	備考
a.24回線単位のもの(円/月)	17,416	(2)の接続装置のc×24
b.672回線単位のもの(円/月)	196,655	(2)の接続装置のc×271
c.2,016回線単位のもの(円/月)	589,965	(2)の接続装置のc×813

(4)料金の設定

・24回線単位のもの

基本料

(7) 同一通信建物内に終始する場合

a. 24回線まで

区分	料金等	備考
24回線あたりコスト(円/月)	17,837	(3)のaの + (2)の専用回線管理運営費のc
料金(円/月)	17,837	24回線あたりコスト × (1 + .料金設定に使用した貸倒率)

b. 24回線を超える24回線ごと

区分	料金等	備考
24回線あたりコスト(円/月)	17,416	(3)のaの
料金(円/月)	17,416	24回線あたりコスト × (1 + .料金設定に使用した貸倒率)

(f) (7)以外で、加入者交換機と市外中継交換機が同一の単位料金区域に終始する場合

a. 24回線まで

区分	料金等	備考
24回線あたりコスト(円/月)	36,663	(3)のaの + (3)のaの + (2)の専用回線管理運営費のc
料金(円/月)	36,663	24回線あたりコスト × (1 + .料金設定に使用した貸倒率)

b. 24回線を超える24回線ごと

区分	料金等	備考
24回線あたりコスト(円/月)	36,241	(3)のaの + (3)のaの
料金(円/月)	36,241	24回線あたりコスト × (1 + .料金設定に使用した貸倒率)

(9) (7)(f)以外

a. 24回線まで(10kmまで)

区分	料金等	備考
24回線あたりコスト(円/月)	41,981	(3)のaの + (3)のaの + (3)のaの × 5km + (3)のaの + (2)の専用回線管理運営費のc
料金(円/月)	41,981	24回線あたりコスト × (1 + .料金設定に使用した貸倒率)

b. 24回線を超える24回線ごと(10kmまで)

区分	料金等	備考
24回線あたりコスト(円/月)	41,559	(3)のaの + (3)のaの + (3)のaの × 5km + (3)のaの
料金(円/月)	41,559	24回線あたりコスト × (1 + .料金設定に使用した貸倒率)

加算料

(7) の(9)において、10kmを超える場合(10kmを超える10kmごと24回線ごと)

区分	料金等	備考
24回線あたりコスト(円/月)	1,512	(3)のaの × 10km
料金(円/月)	1,512	24回線あたりコスト × (1 + .料金設定に使用した貸倒率)

(f) 相互接続点が市外ロードビルと異なる場合(24回線ごと)

区分	料金等	備考
24回線あたりコスト(円/月)	18,825	(3)のaの
料金(円/月)	18,825	24回線あたりコスト × (1 + .料金設定に使用した貸倒率)

・672回線単位のもの

基本料

(7) 同一通信建物内に終始する場合

a. 672回線ごと

区分	料金等	備考
672回線あたりコスト(円/月)	197,076	(3)のbの + (2)の専用回線管理運営費のc
料金(円/月)	197,076	672回線あたりコスト × (1 + .料金設定に使用した貸倒率)

b. 672回線相当加算額

区分	料金等	備考
672回線あたりコスト(円/月)	196,655	(3)のbの
料金(円/月)	196,655	672回線あたりコスト × (1 + .料金設定に使用した貸倒率)

(f) (7)以外で、加入者交換機と市外中継交換機が同一の単位料金区域に終始する場合

a. 672回線ごと

区分	料金等	備考
672回線あたりコスト(円/月)	409,647	(3)のbの + (3)のbの + (2)の専用回線管理運営費のc
料金(円/月)	409,647	672回線あたりコスト × (1 + .料金設定に使用した貸倒率)

b. 672回線相当加算額

区分	料金等	備考
672回線あたりコスト(円/月)	409,225	(3)のbの + (3)のbの
料金(円/月)	409,225	672回線あたりコスト × (1 + .料金設定に使用した貸倒率)

(9) (7)(f)以外

a. 672回線ごと

区分	料金等	備考
672回線あたりコスト(円/月)	469,695	(3)のbの + (3)のbの + (3)のbの × 5km + (3)のbの + (2)の専用回線管理運営費のc
料金(円/月)	469,695	672回線あたりコスト × (1 + .料金設定に使用した貸倒率)

b. 672回線相当加算額

区分	料金等	備考
672回線あたりコスト(円/月)	469,273	(3)のbの + (3)のbの + (3)のbの × 5km + (3)のbの
料金(円/月)	469,273	672回線あたりコスト × (1 + .料金設定に使用した貸倒率)

加算料

(7) の(9)において、10kmを超える場合(10kmを超える10kmごと672回線ごと)

区分	料金等	備考
672回線あたりコスト(円/月)	17,070	(3)のbの × 10km
料金(円/月)	17,070	672回線あたりコスト × (1 + .料金設定に使用した貸倒率)

(f) 相互接続点が市外ロードビルと異なる場合(672回線ごと)

区分	料金等	備考
672回線あたりコスト(円/月)	212,570	(3)のbの
料金(円/月)	212,570	672回線あたりコスト × (1 + .料金設定に使用した貸倒率)

・2,016回線単位のもの

基本料

(7) 同一通信建物内に終始する場合

a. 2,016回線ごと

区分	料金等	備考
2,016回線あたりコスト(円/月)	590,386	(3)のcの + (2)の専用回線管理運営費のc
料金(円/月)	590,386	2,016回線あたりコスト × (1 + 料金設定に使用した貸倒率)

b. 2,016回線相当加算額

区分	料金等	備考
2,016回線あたりコスト(円/月)	589,965	(3)のcの
料金(円/月)	589,965	2,016回線あたりコスト × (1 + 料金設定に使用した貸倒率)

(7) (7)以外で、加入者交換機と市外中継交換機が同一の単位料金区域に終始する場合

a. 2,016回線ごと

区分	料金等	備考
2,016回線あたりコスト(円/月)	1,228,097	(3)のcの + (3)のcの + (2)の専用回線管理運営費のc
料金(円/月)	1,228,097	2,016回線あたりコスト × (1 + 料金設定に使用した貸倒率)

b. 2,016回線相当加算額

区分	料金等	備考
2,016回線あたりコスト(円/月)	1,227,676	(3)のcの + (3)のcの
料金(円/月)	1,227,676	2,016回線あたりコスト × (1 + 料金設定に使用した貸倒率)

(7) (7)(7)以外

a. 2,016回線ごと

区分	料金等	備考
2,016回線あたりコスト(円/月)	1,408,241	(3)のcの + (3)のcの + (3)のcの × 5km + (3)のcの + (2)の専用回線管理運営費のc
料金(円/月)	1,408,241	2,016回線あたりコスト × (1 + 料金設定に使用した貸倒率)

b. 2,016回線相当加算額

区分	料金等	備考
2,016回線あたりコスト(円/月)	1,407,820	(3)のcの + (3)のcの + (3)のcの × 5km + (3)のcの
料金(円/月)	1,407,820	2,016回線あたりコスト × (1 + 料金設定に使用した貸倒率)

加算料

(7) の(7)において、10kmを超える場合(10kmを超える10kmごと2,016回線ごと)

区分	料金等	備考
2,016回線あたりコスト(円/月)	51,210	(3)のcの × 10km
料金(円/月)	51,210	2,016回線あたりコスト × (1 + 料金設定に使用した貸倒率)

(7) 相互接続点が市外ノードビルと異なる場合(2,016回線ごと)

区分	料金等	備考
2,016回線あたりコスト(円/月)	637,711	(3)のcの
料金(円/月)	637,711	2,016回線あたりコスト × (1 + 料金設定に使用した貸倒率)

・中継交換機接続用伝送装置利用機能

(1)原価の算定

(単位:百万円)

	端末系交換設備 - 中継系交換設備伝送路 (中継交換機接続 伝送専用装置)	備考
指定設備管理運営費	534	(参考2)より
他人資本費用	10	レート・ス × 他人資本比率 × 他人資本利率
自己資本費用	36	レート・ス × 自己資本比率 × 自己資本利率
利益対応税	25	(自己資本費用 + (有利子負債以外の負債の額 × 利子相当率)) × 利益対応税率
合計	605	+ + +

正味固定資産価額	1,466	(参考3)より
投資等	5	正味固定資産 × 投資等比率
貯蔵品	14	正味固定資産 × 貯蔵品比率
運転資本	21	(設備管理運営費 - (減価償却費 + 通信設備使用料 + 固定資産税)) × 45.625日 ÷ 365日
レートベース	1,505	+ + +
有利子負債以外の負債の額	150	レート・ス × 他人資本比率 × 有利子負債以外の負債が負債の合計に占める割合
減価償却費	354	
通信設備使用料	0	(参考2)より
固定資産税	15	

(2)料金の設定

区分	料金等	備考
a. 原価(百万円)	605	(1)の より
b. 50Mバス数	1,681	. 料金設定に使用した回線数より
c. 50Mバスあたりコスト(円/50Mバス(672回線)ごと・月)	29,969	a ÷ b ÷ 12ヶ月
d. 料金(円/50Mバス(672回線)ごと・月)	29,969	c × (1 + . 料金設定に使用した貸倒率)

5.信号伝送機能

(1)原価の算定

(単位:百万円)

	信号網設備	備考
指定設備管理運営費	5,295	(参考2)より
他人資本費用	29	レート \times 他人資本比率 \times 他人資本利率
自己資本費用	104	レート \times 自己資本比率 \times 自己資本利益率
利益対応税	72	(自己資本費用 + (有利子負債以外の負債の額 \times 利子相当率)) \times 利益対応税率
合計	5,500	+ + +

正味固定資産価額	4,245	(参考3)より
投資等	15	正味固定資産 \times 投資等比率
貯蔵品	41	正味固定資産 \times 貯蔵品比率
運転資本	101	(設備管理運営費 - (減価償却費 + 通信設備使用料 + 固定資産税)) \times 45.625日 \div 365日
レートベース	4,402	+ + +
有利子負債以外の負債の額	440	レートベース \times 他人資本比率 \times 有利子負債以外の負債が負債の合計に占める割合
減価償却費	1,042	
通信設備使用料	3,407	(参考2)より
固定資産税	39	

(2)料金の設定

・共通線信号網利用機能

区分	料金等	備考
a. 原価(百万円)	5,500	(1)のより
b. 総信号数(億信号/年)	3,483	.料金設定に使用したトラフィックより
c. 1信号あたりコスト(円/信号)	0.015790	a \div b
d. 料金(円/信号)	0.015790	c \times (1 + .料金設定に使用した貸倒率)

6.その他の機能

(1)市内通信機能

A.自ユニット内コスト

区分	料金	備考
加入者交換コスト	b.回数比例料金(円/回) 0.67267	1の(2)のDの加入者交換機能の回数比例分のdより
	g.時間比例料金(円/秒) 0.033210	1の(2)のDの加入者交換機能の時間比例分のG Cのd + G C以下の伝送路のd x 2より

B.自ビル内自ユニット外コスト

区分	料金	備考
加入者交換コスト	b.回数比例料金(円/回) 0.67267	1の(2)のDの加入者交換機能の回数比例分のdより
自ビル内	g.時間比例料金(円/秒) 0.021450	1の(2)のDの加入者交換機能の時間比例分の合計のdより
自ユニット外コスト	c.回数比例料金(円/回) 1.34534	a x 2
	d.時間比例料金(円/秒) 0.042900	b x 2

C.自ビル外コスト

区分	料金	備考
加入者交換コスト	b.回数比例料金(円/回) 0.67267	1の(2)のDの加入者交換機能の回数比例分のdより
加入者交換機回線対応部共用機能コスト	g.時間比例料金(円/秒) 0.021450	1の(2)のDの加入者交換機回線対応部共用機能のdより
市内伝送コスト	d.回数比例料金(円/回) 0.22090	2のDの回数比例より
自ビル外コスト	e.時間比例料金(円/秒) 0.012360	2のDの時間比例より
	f.回数比例料金(円/回) 1.56624	a x 2 + d
	g.時間比例料金(円/秒) 0.0605132	b x 2 + c x 2 + e

D.自ビル内外比率

A.通信回数

区分	通信回数 (千回)	比率	備考
a.自ユニット内	7,583,826	0.70792420	料金設定に使用したfより
b.自ビル内自ユニット外	103,820	0.00969128	
c.自ビル外	3,025,119	0.28238451	
d.計	10,712,766	1.00000000	

E.通信時間

区分	通信時間 (千時間)	比率	備考
a.自ユニット内	261,940	0.71421582	料金設定に使用したfより
b.自ビル内自ユニット外	3,580	0.00976254	
c.自ビル外	101,231	0.27602164	
d.計	366,752	1.00000000	

F.料金の設定

区分	料金	備考
回数比例分	0.93152	Aのa x DのAのaの比率 + Bのc x DのAのbの比率 + Cのe x DのAのcの比率
料金(円/回)	0.93152	Aのa x DのAのaの比率 + Bのc x DのAのbの比率 + Cのe x DのAのcの比率
時間比例分	0.040841	Aのb x DのAのaの比率 + Bのd x DのAのbの比率 + Cのf x DのAのcの比率
料金(円/秒)	0.040841	Aのb x DのAのaの比率 + Bのd x DのAのbの比率 + Cのf x DのAのcの比率

(2)ルーティング通信機能

A.市内通信コスト

区分	料金	備考
市内通信コスト	b.回数比例料金(円/回) 0.93152	1のEの回数比例分より
	g.時間比例料金(円/秒) 0.040841	1のEの時間比例分より

B.ZA内市外通信コスト

区分	料金	備考
加入者交換コスト	b.回数比例料金(円/回) 0.67267	1の(2)のDの加入者交換機能の回数比例分のdより
加入者交換機回線対応部共用機能コスト	g.時間比例料金(円/秒) 0.021450	1の(2)のDの加入者交換機回線対応部共用機能のdより
中継交換コスト	d.回数比例料金(円/回) 0.22090	3の(2)のBの中継交換機能の回数比例分のdより
中継交換機回線対応部共用機能コスト	e.時間比例料金(円/秒) 0.0082969	3の(2)のBの中継交換機回線対応部共用機能のdより
中継伝送コスト	f.時間比例料金(円/秒) 0.0032369	3の(2)のBの中継交換機回線対応部共用機能のdより
ZA内市外コスト	g.時間比例料金(円/秒) 0.0054415	4の中継伝送共用機能の(2)のdより
	h.回数比例料金(円/回) 1.56624	a x 2 + d
	i.時間比例料金(円/秒) 0.06051327	b x 2 + c x 2 + e + f + g + h + i

C.市内・ZA内市外比率

A.通信回数

区分	通信回数 (千回)	比率	備考
a.市内	83,581	0.64355621	平成18年度実績
b.ZA内市外	35,215	0.35644379	
c.計	98,796	1.00000000	

E.通信時間

区分	通信時間 (千時間)	比率	備考
a.市内	2,009	0.65972551	平成18年度実績
b.ZA内市外	1,036	0.34027449	
c.計	3,045	1.00000000	

F.料金の設定

区分	料金	備考
回数比例分	1.1578	Aのa x CのAのaの比率 + Bのh x CのAのbの比率
料金(円/回)	1.1578	Aのa x CのAのaの比率 + Bのh x CのAのbの比率
時間比例分	0.047535	Aのb x CのAのaの比率 + Bのi x CのAのbの比率
料金(円/秒)	0.047535	Aのb x CのAのaの比率 + Bのi x CのAのbの比率

(3)ルーティング指示に係る確保機能

A.1秒あたりのコスト

区分	料金	備考
a.加入者交換コスト(時間比例料金(円/秒))	0.021450	1の(2)のDの加入者交換機能の時間比例分の合計のdより
b.加入者交換機回線対応部共用機能コスト(時間比例料金(円/秒))	0.0026266	1の(2)のDの加入者交換機回線対応部共用機能のdより
c.中継伝送コスト(時間比例料金(円/秒))	0.0054415	4の中継伝送共用機能の(2)のdより
d.中継交換コスト(時間比例料金(円/秒))	0.0082969	3の(2)のBの中継交換機能の時間比例分のdより
e.中継交換機回線対応部共用機能コスト(時間比例料金(円/秒))	0.0032369	3の(2)のBの中継交換機回線対応部共用機能のdより
f.合計	0.03067148	a + b + c + d + e

B.料金の設定

区分	料金等	備考
a.1秒あたりのコスト(円/秒)	0.030671	Aのfより
b.1秒あたりの確保時間(秒/呼)	0.45	-
c.料金(円/呼)	0.013802	a x b

(4)音声ガイダンス送受信接続通信機能

A.1秒あたりの場合

A.1秒あたりのコスト

区分	料金	備考
a.加入者交換コスト(時間比例料金(円/秒))	0.021450	(3)のAのaより
b.加入者交換機回線対応部共用機能コスト(時間比例料金(円/秒))	0.0026266	(3)のAのbより
c.中継伝送コスト(時間比例料金(円/秒))	0.0054415	(3)のAのcより
d.中継交換コスト(時間比例料金(円/秒))	0.0082969	(3)のAのdより
e.中継交換機回線対応部共用機能コスト(時間比例料金(円/秒))	0.0032369	(3)のAのeより
f.合計	0.03067148	a + b + c + d + e

B.単金

区分	単金	備考
a.GC接続による音声ガイダンス装置への接続(円/秒)	0.021450	Aのaより
b.ZC接続による音声ガイダンス装置への接続(円/秒)	0.03067148	Aのfより

C.料金の設定

区分	料金等	備考
a.GC接続による音声ガイダンス装置への接続(円/秒)	0.015450	BのaにGC接続率を加味
b.ZC接続による音声ガイダンス装置への接続(円/秒)	0.0085796	BのbにZC接続率を加味
c.合計(円/秒)	0.024029	a + b

イ 特定中継事業者の伝送路設備を利用する場合

A.1秒あたりのコスト

区分	料金	備考
a. 加入者交換コスト(時間比例料金(円/秒))	0.021450	(3)のAのaより
b. 加入者交換機回線対応部共用機能コスト(時間比例料金(円/秒))	0.0026266	(3)のAのbより
c. 中継伝送コスト(時間比例料金(円/秒))	0.0054415	(3)のAのcより
d. 中継交換コスト(時間比例料金(円/秒))	0.00082969	(3)のAのdより
e. 中継交換機回線対応部共用機能コスト(時間比例料金(円/秒))	0.00032369	(3)のAのeより
f. 合計	0.03067148	a + b + c + d + e

B. 単金

区分	単金	備考
a. 2A内設置の音声ガイダンス装置への接続(円/秒)	0.03067148	Aのfより
b. 他2A設置の音声ガイダンス装置への接続(円/秒)	0.033608	Aのa, b, c, d, eにG通信比率等を加味

C. 料金の設定

区分	料金等	備考
a. 2A内設置の音声ガイダンス装置への接続(円/秒)	0.022310	Bのaに2A内接続率を加味
b. 他2A設置の音声ガイダンス装置への接続(円/秒)	0.0091818	Bのbに他2A接続率を加味
c. 合計(円/秒)	0.031492	a + b

(5)課金秒数送付機能

区分	料金等	備考
a. 信号網使用料(円/信号)	0.015790	5の(2)のdより
b. 信号数(信号)	2	往復信号分
c. 料金(円/回)	0.031580	a × b

(6)リダイレクション網使用機能

ア 当社の中継交換機で接続し当社の加入者交換機を利用して電気通信事業者の通信経路を設定するためにリダイレクションを行う機能

A.1秒あたりコスト

区分	料金	備考
a. 加入者交換コスト(時間比例料金(円/秒))	0.021450	(3)のAのaより
b. 加入者交換機回線対応部共用機能コスト(時間比例料金(円/秒))	0.0026266	(3)のAのbより
c. 中継伝送コスト(時間比例料金(円/秒))	0.0054415	(3)のAのcより
d. 中継交換コスト(時間比例料金(円/秒))	0.00082969	(3)のAのdより
e. 中継交換機回線対応部共用機能コスト(時間比例料金(円/秒))	0.00032369	(3)のAのeより
f. 合計	0.03067148	a + b + c + d + e

B. 料金の設定

区分	料金等	備考
a. 1秒あたりのコスト(円/秒)	0.03067148	Aのfより
b. 1秒あたりの網係前時間(秒/回)	1.144	接続処理時間
c. 料金(円/回)	0.035088	a × b

イ 特定中継事業者の中継交換機に接続し当社の加入者交換機を利用して電気通信事業者の通信経路を設定するためにリダイレクションを行う機能

A. 料金の設定

区分	料金等	備考
a. 1秒あたりのコスト(円/秒)	0.021450	Aのaより
b. 1秒あたりの網係前時間(秒/回)	1.144	接続処理時間
c. 料金(円/回)	0.024539	a × b

(7)PHS制御信号機能

・PHS端末発信コスト

・コストの算定

A. 回数比例コスト

区分	回数比例料金(円/回)	備考
加入電話	0.67267	1の(2)のDの加入者交換機能の回数比例分のdより

B. 時間比例コスト

区分	時間比例料金(円/秒)	備考
加入電話	0.021450	1の(2)のDの加入者交換機能の時間比例分の合計のdより

C. 信号網コスト

区分	(a)料金(円/信号)	(b)信号数(信号)	(c)=(a)×(b)(円/回)	備考
信号網料金	0.015790	14	0.22106	5の(2)のdより

D. 合計

区分	料金等	備考
a. 回数比例料金(円/回)	0.67267	Aより
b. 時間比例料金(円/秒)	0.021450	Bより
c. 信号網料金(円/回)	0.22106	Cの(c)より
d. 平均利用回数(回/月)	0.76160	-
e. 平均保留秒数(秒)	30.091	-
f. 合計(円/月・契約)	1.1722	(a + c) × d + b × d × e

・固定電話発信コスト

A. 回数比例コスト

区分	回数比例料金(円/回)	備考
加入電話	0.67267	1の(2)のDの加入者交換機能の回数比例分のdより

B. 時間比例コスト

区分	時間比例料金(円/秒)	備考
加入電話	0.021450	1の(2)のDの加入者交換機能の時間比例分の合計のdより

C. 信号網コスト

区分	(a)料金(円/信号)	(b)信号数(信号)	(c)=(a)×(b)(円/回)	備考
信号網料金	0.015790	16	0.25264	5の(2)のdより

D. 合計

区分	料金等	備考
a. 回数比例料金(円/回)	0.67267	Aより
b. 時間比例料金(円/秒)	0.021450	Bより
c. 信号網料金(円/回)	0.25264	Cの(c)より
d. 平均利用回数(回/月)	0.33790	-
e. 平均保留秒数(秒)	25.401	-
f. 合計(円/月・契約)	0.49677	(a + c) × d + b × d × e

料金の設定

A. 料金の設定

区分	料金等	備考
a. PHS端末発信(円/月・契約)	1.1722	Dのdより
b. 固定電話発信(円/月・契約)	0.49677	Dのdより
c. 料金(円/月・契約)	1.6689	a + b

投資等比率及び貯蔵品比率の算定

(1) 投資等比率の算定

(単位：百万円)

区分	H18年度首末平均残高
指定設備管理部門の電気通信事業固定資産	5,063,844 (A)
指定設備管理部門における投資等(収益の見込まれないもの) ()	17,666 (B)
投資等比率 (B ÷ A)	0.0035 (C)

投資等は、収益性が見込まれない出資金、保証金・負担金等である。

(2) 貯蔵品比率の算定

(単位：百万円)

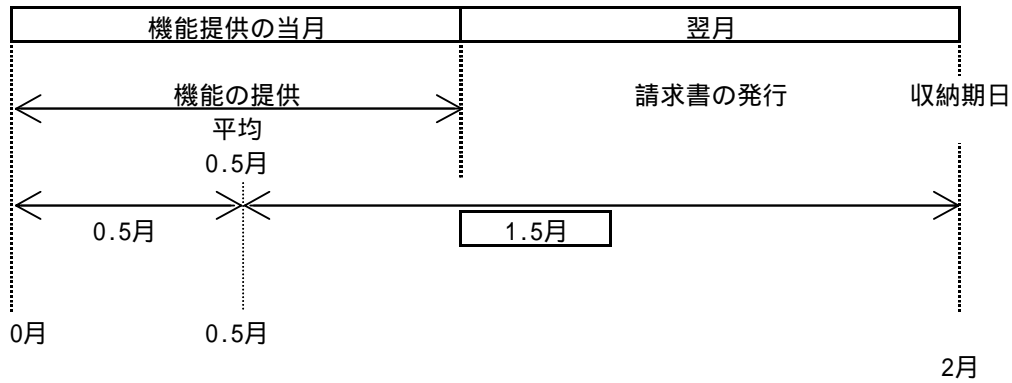
区分	H18年度首末平均残高
電気通信事業固定資産	6,036,874 (A)
貯蔵品 ()	57,766 (B)
貯蔵品比率 (B ÷ A)	0.0096 (C)

貯蔵品は、現用に供されるまでの間保管されている電気通信設備用品（新品）であり、金額は月末在庫額の年平均値である。

(注)なお繰延資産比率については、繰延資産が発生していないので無しとする。

接続料収納までの平均的な日数の算定

(1)機能の提供と接続料の収納までの日程



(2)機能の提供から当該機能に係る接続料の収納までの平均的な日数の算定

機能の提供から当該機能に係る接続料の収納までの平均的な日数

$$= \frac{1.5 \text{ ヲ月}}{(1) \text{ より}} \div 12 \text{ ヲ月} \times 365 \text{ 日} = \boxed{45.625 \text{ 日}}$$

資本構成比率の算定

(1) 資本の状況

(単位：百万円)

B / S (H 1 8) 稼働ベース		レートベース		(資本構成)		
電気通信事業 固定資産 6,036,874	有利子負債 2,257,965 (0.285)	圧縮後の資本構成比 →	H 1 8 稼働 電気通信事業固定資産 6,036,874	↑ 負債		
	その他の負債 1,008,651 (0.127)					
	退職給付引当金 1,131,210 (0.143)					
流動資産等 1,876,820	自己資本 3,515,867 (0.444)	流動資産の 圧縮 1,498,534	貯蔵品(月平均) 57,766	退職給付引当金 641,327 (0.100)	↓ 資本	
		378,286	投資等 21,097	自己資本 3,515,867 (0.548)		
計 7,913,694		流動資産の理論値と 実績の差 378,286 - 1,876,820 = 1,498,534	計 6,415,160	計 6,415,160		

(2) 他人資本比率

$$\text{他人資本比率} = \frac{(2,257,965 + 641,327)}{\text{負債}} \div \frac{6,415,160}{\text{負債資本合計}} = \boxed{0.452}$$

(3) 有利子負債が負債の合計に占める比率

$$\text{有利子負債が負債の合計に占める比率} = \frac{2,257,965}{\text{有利子負債}} \div \frac{(2,257,965 + 641,327)}{\text{負債の合計}} = \boxed{0.779}$$

(4) 有利子負債以外の負債が負債の合計に占める割合

$$\text{有利子負債以外の負債が負債の合計に占める割合} = 1 - \frac{0.779}{\text{有利子負債が負債の合計に占める比率}} = \boxed{0.221}$$

(5) 自己資本比率

$$\text{自己資本比率} = 1 - \frac{0.452}{\text{他人資本比率}} = \boxed{0.548}$$

他人資本利率の算定

(1)有利子負債に対する利率

有利子負債の額に対する他人資本費用の平成18年度実績とした。

有利子負債に対する利率 = 1.45%

(単位：%)

年度	18
区分	
他人資本利率	1.45

(注)借入金の平均利率である。

(2)有利子負債以外の負債の利率相当率

国債利回りの過去5年平均とした。

有利子負債以外の負債の利率相当率 = 1.39%

(単位：%)

年度	14	15	16	17	18	平均
区分						
他人資本利率	1.13	1.11	1.52	1.40	1.79	1.39

(注)国債(利付・10年物)の平均利回りである。

(3)他人資本利率

他人資本利率 = $1.45\% \times 0.779 + 1.39\% \times 0.221$ = 1.44%

(有利子負債に対する利率 × 有利子負債比率 + 国債利回り × 有利子負債以外の負債の比率)

自己資本利益率の算定

1. C A P M的手法による自己資本利益率

(単位：%)

区分	年度			平均(注4)	
	16	17	18	3年平均	
主要企業の自己資本利益率(注1)	5.39	7.08	5.97	-	
値の適用				-	
リスクフリーレート(注2)	1.52	1.40	1.79	-	
-	3.87	5.68	4.18	-	
選択される自己資本利益率	= 0.6 (注3)	3.84	4.81	4.30	4.32

(注1) 主要企業の自己資本利益率は「日経経営指標」より。但し、平成18年度は速報値である。

(注2) リスクフリーレートについては、指定設備全体の平均的な耐用年数に着目し、耐用年数が10年超であることから国債(利付・10年物)の利回りを使用した。

(注3) 値については、昨年度と同とした。

(注4) 算定期間については、3年間とした。

2. 主要企業の過去5年間の自己資本利益率

(単位：%)

区分	年度					平均
	14	15	16	17	18	
主要企業の自己資本利益率	2.61	4.83	5.39	7.08	5.97	5.18

(注) 「日経経営指標」より。ただし平成18年度は速報値である。

3. 料金算定に採用した自己資本利益率

上記1, 2を勘案し、低い方の1のC A P M的手法による自己資本利益率を採用する。

自己資本利益率 = 4.32%

利益対応税率の算定

利益対応税としては、事業税、法人税、道府県民税、市町村民税を見込んだ。

利益対応税率 = 65.40%

(算定方法)

1. 税引前利益に対する率の算定

税引前利益を y 、税額を x_n とする。

事業税実効税率

事業税額を x_1 とする。

$$x_1 = (y - x_1) \times 0.072 \qquad x_1 = \frac{0.072}{1+0.072} \times y = \underline{0.0672y}$$

法人税実効税率

法人税額を x_2 とする。

$$\begin{aligned} x_2 &= \text{事業税引後利益} \times 0.3 \\ &= (y - 0.0672y) \times 0.3 \\ &= \underline{0.2798y} \end{aligned}$$

道府県民税実効税率

道府県民税額を x_3 とする。

$$\begin{aligned} x_3 &= \text{法人税額} \times 0.05 \\ &= 0.2798y \times 0.05 = \underline{0.0140y} \end{aligned}$$

市町村民税実効税率

市町村民税額を x_4 とする。

$$\begin{aligned} x_4 &= \text{法人税額} \times 0.123 \\ &= 0.2798y \times 0.123 = \underline{0.0344y} \end{aligned}$$

税引前利益に対する利益対応税率

利益対応税額を x とする。

$$\begin{aligned} x &= x_1 + x_2 + x_3 + x_4 \\ &= \underline{0.3954y} \end{aligned}$$

2. 税引後利益に対する率の算定

税引後利益を z 、税引前利益を y 、税額を x とする。

$$\text{利益対応税率} = \frac{x}{z} = \frac{0.3954y}{(1-0.3954)y} = \frac{0.3954y}{0.6046y} = 0.6540$$

税引前利益 y
利益対応税 $x = 0.3954y$
税引後利益 $z = (1-0.3954)y$

料金設定に使用したトラヒック

機能別トラヒックは、A.平成19年度下期+平成20年度上期のサービス別予測トラヒックにB.機能毎の経由回数を乗じて算定した。

機能別トラヒック

区分	通信回数 (千回)	通信時間 (千時間)
端末系交換機能(GC)	90,860,837	3,080,694
端末系交換機能(GC以下の伝送路)	-	3,342,634
端末系交換機能(加入者交換回線収容共用部)	-	1,486,125
中継系交換機能(IC)	36,955,074	1,300,125
中継系交換機能(中継交換回線収容共用部)	-	1,486,125
中継伝送機能	-	1,486,125

区分	総信号数 (億信号)	備考
信号伝送機能	3,483	平成19年度下期+平成20年度上期予測

A.平成19年度下期+平成20年度上期のサービス別予測トラヒック

区分	通信回数 (千回)	通信時間 (千時間)
自ユニット内	7,583,826	261,940
自ビル内自ユニット外	103,820	3,580
MA内自ビル外	3,025,119	101,231
MA間ZA内	4,826,249	169,537
GC接続	40,676,052	1,325,468
ZC接続	31,516,830	1,114,126

B.機能毎の経由回数

区分	端末系交換機能 (GC)	端末系交換機能 (GC以下の伝送路)	端末系交換機能 (加入者交換回線収容共用部)	中継系交換機能 (IC)	中継系交換機能 (中継交換回線収容共用部)	中継伝送機能
自ユニット内	1	2				
自ビル内自ユニット外	2	2				
MA内自ビル外	2	2	2	1	2	2
MA間ZA内	1	1	1	0.5	1	1
GC接続	1	1				
ZC接続	1	1	1	1	1	1

・料金設定に使用した回線数

・加入者交換機回線対応部専用機能算定に使用した予測パス数

区分	1.5Mパス数()
加入者交換機接続1.5Mパス数 総務省モデルより	14,868

・中継交換機回線対応部専用機能算定に使用した予測パス数

区分	1.5Mパス数()
中継交換機接続1.5Mパス数 総務省モデルより	29,556

・中継交換機接続用伝送装置利用機能算定に使用した予測パス数

区分	50Mパス数()
中継交換機接続用伝送装置収容50Mパス数 総務省モデルより	1,681

・中継伝送専用機能算定に使用した機能別予測回線数

機能別回線数は、平成19年度末の接続形態別予測契約回線数に機能ごとの速度換算係数を乗じて算定した。

区分	回線数 (回線)	回線距離 (km)
中継伝送専用機能(MA内伝送路)	235,558	---
中継伝送専用機能(MA間伝送路)	87,642	3,220,397
接続装置	287,932	---
専用回線管理運営費対応回線数(契約回線数)	1,841	---

・料金設定に使用した貸倒率

	コスト等	備考
接続料の貸倒額	0	H18年度実績 (実際費用方式に基づく平成20年度接続料に関する網使用料算定根拠(平成20年1月9日認可申請)の参考1.設備区分別の費用明細表より)
接続料	640,460	H18年度実績 (接続会計報告書 様式第1 第一種指定設備管理部門の受取網使用料、接続装置使用料収入、網改造料収入の合計)
貸倒率	0.00000%	÷

(参考2)

設備区分別の費用明細表【東西合計】
 (総務省通知モデルの出力結果をもとに作成)

(単位:百万円)

設備区分等 費用の項目	端末系伝送路					中継系交換設備										信号網設備										合計						
	加入者回線	加入者回線	主配線盤	総合デジタル通信局内回線終端装置	端末系交換設備	G C	右記以外のG C	右記以外	回線数の増減に応じて当該設備に係る費用が増減するもの	加入者交換回線収容専用部	加入者交換回線収容共用部	緊急通報設備	G C以下の伝送路	右記以外	回線数の増減に応じて当該設備に係る費用が増減するもの	端末系交換設備、中継系交換設備伝送路	共用型	中継交換機接続伝送専用装置	専用型	M A内伝送路	M A間伝送路・回線比例	M A内伝送路・回線距離比例	接続装置	回線管理運営費	中継系交換設備		I C	中継交換回線収容専用部	中継交換回線収容共用部	信号網設備		
減価償却費	245,033	235,789	233,114	2,675	9,245	220,305	94,285	93,270	53,216	32,953	1,956	5,145	1,015	126,020	41,965	84,055	16,780	13,681	354	2,745	1,042	117	100	1,485	-	6,938	5,377	672	890	1,042	490,099	
通信設備使用料	-	-	-	-	-	2,505	-	-	-	-	-	-	-	2,505	1,991	513	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3,407	5,912
固定資産税	34,896	34,438	33,942	496	458	16,989	4,673	4,618	2,549	1,728	94	247	55	12,315	4,367	7,949	1,259	1,051	15	192	113	5	15	59	-	249	193	24	32	39	53,432	
施設保全費	238,609	230,426	228,165	2,261	8,183	160,556	107,980	107,464	63,135	35,901	2,322	6,105	516	52,577	16,559	36,018	7,339	6,262	123	954	361	40	37	516	-	3,836	2,973	371	492	524	410,864	
道路占用料	15,620	15,620	15,620	-	0	2,044	-	-	-	-	-	-	-	2,044	770	1,274	161	135	-	26	23	-	4	-	-	-	-	-	-	-	17,824	
撤去費用	16,470	16,334	16,234	100	136	6,151	1,365	1,351	746	506	27	72	14	4,786	1,659	3,127	586	514	4	68	44	1	6	16	-	94	73	9	12	12	23,313	
試験研究費	20,134	19,543	19,361	181	591	13,396	6,830	6,778	3,923	2,331	144	379	52	6,566	2,207	4,359	857	710	16	131	52	5	5	68	-	365	282	35	47	165	34,916	
接続関連事務費	57	57	56	0	1	30	6	6	3	2	0	0	0	24	8	16	12	2	0	10	0	0	0	9	0	0	0	0	0	0	99	
管理共通費	39,505	38,166	37,793	373	1,339	26,558	17,526	17,440	10,237	5,836	377	990	87	9,032	2,866	6,166	1,251	1,065	21	166	63	7	6	89	-	641	497	62	82	105	68,061	
合計	610,324	590,372	584,286	6,086	19,952	448,533	232,665	230,926	133,810	79,257	4,920	12,938	1,740	215,868	72,392	143,476	28,245	23,419	534	4,291	1,697	177	174	2,234	9	12,124	9,395	1,174	1,555	5,295	1,104,520	

平成20年度工事費算定根拠

・工事費

・加入者交換機等接続回線設置等工事費

ア イ以外の場合

A. 原価の算定

区分	コスト	備考
回線工事原価(百万円)	1,731	総務省モデルより

B. 工事費の設定

区分	金額等	備考
a. 原価(百万円)	1,731	Aより
b. 工事バス数(50M/バス)	7,867	平成18年度実績
c. 工事費(円/50M/バス(672回線)ごと)	220,090	a ÷ b

イ 第23条(接続用設備の設置又は改修の申込み)第1項又は第4項に係る申込みにより工事を行う場合

A. 割増率の設定

区分	比率等	備考
a. 定期申込工事平均稼働(分)	3,329	
b. 随時申込工事平均稼働(分)	5,862	
c. 割増率	1.76	b ÷ a

B. 工事費の設定

区分	金額等	備考
a. 加入者交換機等接続回線設置等工事費(円/50M/バス(672回線)ごと)	220,090	AのBのcより
b. 割増率	1.76	Aのcより
c. 工事費(円/50M/バス(672回線)ごと)	387,358	a × b